

道徳の授業に対する
教員の意識・実際の工夫・今後への期待
－全国教員対象調査の結果から－
＜結果報告書＞

2026（令和8）年1月

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

上廣道徳・倫理教育研究開発推進室

は じ め に

いま、文部科学省が設置する中央教育審議会において、次期新学習指導要領の在り方に関する審議が進められている。道徳教育に関してもその検討のためのワーキングが設置され、例えば、教育課程の柔軟化、道徳科の学びの在り方、教科書や教材の在り方などを論点として審議が進められている。言うまでもなく、道徳教育は、学校教育の中において、子どもの人格の完成や人間形成を担う中核的な役割を果たしている。そこで育むべき資質・能力として示される「学びに向かう力、人間性等」は、児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」との付記からも受け止められるように、紛れもなく、豊かな生き方の実現を後押しするための方向性をもっている。

振り返るならば、戦後型道徳教育の要として、従前の「道徳の時間」が「特別の教科」である道徳科に位置付けられたのは2015（平成27）年の学習指導要領の一部改正においてであった。その約3年後の2018（平成30）年度より小学校段階から検定教科書使用による道徳授業が全面的な実施となり、以来、既に10年が経過した。しかし、全面的な展開が始められた直後に私たちの社会を覆ったコロナ禍は、その量的確保のための計画的な指導を困難にし、質的改善のための子ども相互の議論の場がアクリル板などで遮られた時期もあった。そのような中でも、各学校・学級での一人一人の先生方による道徳授業の改善・充実への取組は地道に続けられてきた。

私たちは、それらの状況を踏まえ、更なる改善への手掛かりなどを見出すために、道徳教育の実施状況について教員からの回答をもとに把握する必要があると考えた。そこで、2023（令和5）年度末に全国教員対象調査を実施し、その結果を2024（令和6）年12月に整理して提示した。しかし、その中で更なる問いが生まれ、課題をさらに焦点化させた調査の必要性を強く感じた。それは、例えば、教員が授業で感じる悩み、実践上の工夫の実際、そして、道徳授業で強く期待する方向性などに関する教員の考え方などである。そこで、上記の調査結果の分析等を下地として発展的かつ継続的な視点での2回目の調査を実施することとした。その結果を整理したのが本冊となる報告書である。

なお、本調査研究は、2023（令和5）年度より公益財団法人上廣倫理財団のご支援をいただき、学内の先端教育人材育成推進機構に上廣道徳・倫理教育研究開発推進室を設置し、さまざまな事業を行う中、調査研究の中心的な取組として位置付けて進めたものである。ご支援いただいている財団及び関連の皆様へ深甚なる感謝の意を表したい。また、この報告書は、全国の小・中学校の多くの先生方の多忙な時間の一部をお借りし、そのご理解とご厚意に支えられてまとめることができた。調査にご協力いただいた先生方に心よりお礼を申し上げたい。ぜひ、本調査の結果を参考にし、また活用いただき、さらに今後に向けた感想等をいただくことができればこの上ないことと考えている。

2026（令和8）年1月

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室
室長 永田 繁雄

2024～2025 年度「上廣道徳・倫理教育研究開発推進室」（構成員）

◎：統括監督者 ○：室長 ◇：協力教員

◎佐々木 幸 寿	先端教育人材育成推進機構長
○永 田 繁 雄	先端教育人材育成推進機構教授
齋 藤 嘉 則	先端教育人材育成推進機構教授
松 尾 直 博	総合教育科学系長・教授
浅 部 航 太	教職大学院准教授
劉 博 昊	教職大学院講師
川 出 龍 一	先端教育人材育成推進機構助教
範 蘭 心	先端教育人材育成推進機構特命助教
山 敷 真 央	先端教育人材育成推進機構専門研究員
◇小 森 伸 一	芸術・スポーツ科学系教授

(2026 年 1 月段階)

本調査「道徳の授業に対する教員の意識・実際の工夫・今後への期待—全国教員対象調査の結果から—」の結果報告書は、本学の先端教育人材育成推進機構「上廣道徳・倫理教育研究開発推進室」における事業の一環として行い、まとめたものである。

も く じ

□ はじめに	-----	(i)
□ 2024～2025 年度「上廣道徳・倫理教育研究開発推進室」(構成員)	-----	(ii)
□ も く じ	-----	(iii)

◆調査にあたって

1 本調査実施の背景と趣旨	-----	2
(1) 調査の背景と実施までの経緯	-----	2
(2) 調査の趣旨	-----	3
2 調査の目的と方法	-----	4
(1) 調査の目的	-----	4
(2) 調査の方法	-----	4

◆結果

1 回答者の属性および勤務校の状況	-----	1 0
A 道徳授業について思っていることや、考えていること	-----	1 2
(A-1) 道徳授業に対する印象	-----	1 2
(A-2) 道徳授業の効果	-----	1 3
(A-3) 授業実施の中で悩んでいること	-----	1 4
(A-4) 授業において特に意識していること・実践していること	-----	2 4
B 道徳授業についての様子や、工夫していること	-----	3 0
(B-1) 道徳授業の様子	-----	3 0
(B-2) 授業で取り入れている工夫	-----	3 1
(B-3) 効果・手応えがあったと感じた教材・授業	-----	3 2
(B-4) 自分に生かしたい授業	-----	4 0
C 道徳授業についての期待や、これからのに向けた考え	-----	5 0
(C-1) 「特別の教科」である道徳科に対する意見	-----	5 0
(C-2) 授業で行いたいテーマ	-----	5 1
(C-3) これからの道徳授業への期待と改善すべきこと	-----	5 2

□ おわりに	-----	5 9
--------	-------	-----

◆調査内容

6 1

◆ 調査にあたって ◆

1 本調査実施の背景と趣旨

(1) 調査の背景と実施までの経緯

子どもたちの心身の成長発達に伴う諸課題は深刻化の一途を辿っている。「特別の教科」である道徳科が学校の教育課程に位置付けられ、既に各学校で計画的な取組が行われているものの、道徳授業がそれらの課題に正面から応え切れてはいない状況もみられる。そこで、いま、その実施状況を明らかにし、そこから今後への改善の方向を見出すことはとりわけ重要なことであると考えている。

本学の推進室における 2023（令和 5）年度調査の実施

上記の問題意識に立ち、本学の上廣道徳・倫理研究開発推進室（上記見出し及び以下、「推進室」）では、今回の調査に先立つ 2023（令和 5）年度末に全国調査を実施した。各学校で取り組む教員一人一人の考えなどを広く把握するとともに、そこから新たな改善の方向や方途を生み出すことなどを目的としたもので、推進室では、慎重にその各調査項目の設定に検討を重ね、調査を実施し、分析した。その結果は、右図に表紙を示す報告書『道徳教育に関する小・中学校段階の教員を対象とした調査—道徳の授業への取組を中心として—』として整理している。

そこでは、いくつかの傾向が浮かび上がり、新たな視点も得られた。例えば、全体的視点として主として次のことが確認されている。

- 教科書や定番教材の活用に加え、多様な教材の使用への関心が広くみられたこと
- 指導方法や教材、指導体制などで、多面的に改善を図ろうとする意識が伺えること。
- 教科化により、教員の意識や時数確保などの改善はみられるが、子どもの意欲や変化などには必ずしも強いプラスの効果は表れていないと推察されたこと。
- 社会的課題よりも、子どもの心の課題に教員の意識が強く向かう傾向がみられたこと。
- 道徳科の質的改善については、各教員が「多面的・多角的」「自分事」などのキーワードに基づいて意識する傾向が強く、今後その具体化が期待されること。 など

前回調査の結果等を踏まえて更なる焦点化を図った調査の企画

これらの結果から、さらに精緻に把握したい内容や課題もみえてきた。それは多岐にわたるが、特に次のことがらが一層強い関心事項として浮かび上がった。

- 教員一人一人がもつ道徳授業上の印象や悩みなどの具体的な内容はどんなものか。
- 教員は、道徳授業についてどんなよさや効力感を具体的に感じているのか。
- 各教員が取り組む実践での実際的な工夫にはどのようなものがみられるのか。
- 各教員が教師経験の中で触れた価値ある実践にはどのようなものがあるのか。 など

さらに、今回の調査を企画した時期に重なる新たな状況として、文部科学省による教育課程改訂に関する動きもある。しかし、それにも関わる教員一人一人の今後の道徳教育への期待や、道徳授業のあり方への願い等を把握する調査等はまだみることがない。そこで今回は、そのことも可能な範囲で含めて明らかにすることはできないかと考えた。

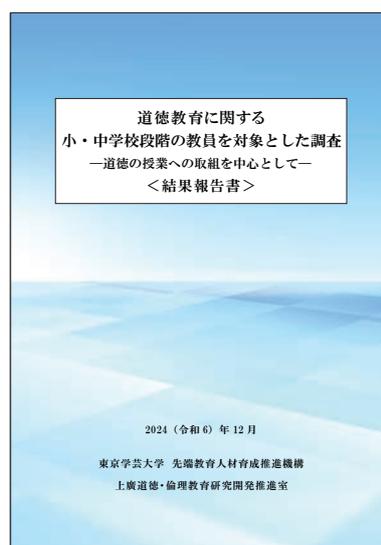


図 1 前回調査の報告書表紙

(2) 調査の趣旨

今次の調査は、前述のように、前回の調査にみられた更なる課題を踏まえ、併せて現在の学校教育で行う教育課程実施上の動きを見据えて企画されたものである。道徳科の指導の改善・充実のための課題や方向を見出すためには、各学級において実際に子どもに向き合って授業を行う学級担任一人一人を対象として調査することがとりわけ有効である。今回は、前回にもましてそのことを意識し、学校全体での道徳教育への取組という経営的・計画的な視点とよりも、教員のもつ悩みや具体的な実践の傾向が日常指導の実態に即してより効果的に描き出されるようにと意図した。なお、調査の性格から、前回調査と類似の質問項目が一定程度含まれるのはやむを得ないことと考えた。しかし、その場合でも、表現の工夫などでさらに具体的かつ細かく問うなどして、意識の微妙な違いや時間的な経過での変化等も含めて分析することもできることを期待した。

これらを踏まえ、本調査の企画と実施に際しては特に次の点を押さえるようにした。

調査対象について

全国の小・中学校等より、調査を依頼する教員の学校数の全体が 2500 校程度の規模となるように地域ごとに平均的に抽出し、依頼することとする。

調査時期について

各学校の教員が年間に渡って実施した取組の全体を広く省察しながら回答できるように、回答を依頼する期間を 1 月後半から 2 月末までとなるようにする。

調査内容について

調査内容の具体的な柱立て等は後述するが、特に次の 3 点を考慮し、それに対応して大きく 3 つに区分された内容として実施できるようにする。なお、年度末に向かう時期でもあり、なるべく負担が過重にならないように呼びかけや実施方法等を工夫する。

1) 道徳科の授業に対する印象や考え、悩んでいることなどをより精緻に把握する

道徳科について教員一人一人がどんな印象をもち、またどのようなことがらに効力感をもっているかについて明らかにするとともに、実際にどんなことに悩んでいるかについて具体的な声を自由記述などによって拾い出すことができるようにする。

2) 道徳科の実施傾向の全体的な受け止めや実践上の工夫の実際を明らかにする

道徳科の授業の全体的な実施の状況について、教員としてどのように受け止めているか、また、その中でどんな手応えのある実践を行い、また、他の教員の効果的な実践を見聞きしてきているかについて明らかにする。

3) 道徳科の今後にどんな期待をもち、どんな指導上のテーマを進めたいかを把握する

道徳科の現状を変えていくとしたらどのようにしたいのかという改善意見や、実施してみたい授業テーマなどを問い、教員個人の考えの傾向から改善・充実の方向付けとなる手掛かりを得られるようにする。

なお、今回実施のための調査票の作成に際しては、前回と同様、その実施の前に首都圏（主に東京都内）の教員及び本学の附属学校道徳研究部に所属する教員に模擬的な回答を依頼し、それに基づく改善意見を求めた。実際に 12 名から意見を得ることができ、その意見を調査用紙の最終調整等に反映させている。

2 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

包括的な目的

本調査の包括的な目的は、次のとおりである。

「特別の教科」である道徳科について、教員一人一人の感じる悩み、各教室での実践上の具体的な工夫の実際、さらには、今後の期待や取り組みたいテーマなどを明らかにし、その改善・充実への手がかりや示唆を得ることができるようにする。

具体的な目的・ねらい

そこで、上記目的を受けて、次の具体的な目的を設定した。

- ① 道徳科に対する教員各個人の印象や実感、悩みなどについて把握する。
- ② 道徳授業の実施の全体的傾向の教員としての受け止めや、実践上の具体的な工夫、聞きした事例などを明らかにする。
- ③ 道徳科の今後への期待や考え、実施してみたいテーマなどを把握する。

(2) 調査の方法

調査実施時期

依頼状が郵送されたのは 2025（令和 7）年 1 月であり、回答期限は 2025（令和 7）年 2 月の月末までであった。

調査対象サンプリング方法

「2023 年版全国学校データ（特定非営利活動法人 教育ソリューション協会）」の全国学校リストより系統抽出法を用いて抽出された小学校 1428 校、中学校 1050 校、義務教育学校 16 校および中等教育学校 6 校の総計 2500 校であった。上記の手続きによって 1 校あたり最大 7 名の教員が回答対象とされた。

調査手続き

郵送法を用いて、調査対象校に調査の依頼状とアンケート内容の参考用紙（2 部）が送付され、内容参考用紙のおもて面にある QR コードから Google Form にアクセスして回答してもらい、オンラインでデータを収集した。回答を依頼した対象は、1 校につき、なるべく、①道徳教育推進教師、道徳主任、道徳教育を主に担当する教員 1 名、と②学級担任（①で回答した教員を除く）1 名～最大 6 名とされた。ただし、学校の事情や規模などによって、人数が少なくてもかまわないこと、また、調査結果（まとめ）は、アンケートに回答した学校で、送付を希望される学校の全てに送付することが伝えられた。

回答件数

合計 1147 件の回答が収集でき、そのうち小学校 678 件、中学校 457 件、義務教育学校 1 件、中等教育学校 11 件であった（表 1）。担当する学校段階によって分けたところ、小学校教員は 676 名で、中学校教員は 471 名であった。調査年度の 2024（令和 6）年度に道徳教育推進教師（道徳主任）など、学校における道徳教育や道徳科の指導を推進する分掌を担当しているか否かについて、その内訳は、表 2 に示されるとおりである。

表 1 学校種別回収件数

	小学校	中学校	義務教育学校	中等教育学校
回収件数	678	457	1	11
割合 (%)	59.1	39.8	0.1	1.0

表 2 学校段階別の回答者数と道徳教育主担当の有無

	回答者全体	担当している	担当していない
小学校段階	676	231	445
中学校段階	471	226	245

調査内容

アンケートはフェイスシートと道徳教育に関する調査項目(A:道徳授業について思っていること・考えていること, B:道徳授業についての様子や, 工夫していること, C:道徳の授業についての期待や, これからに向けた考え)から構成されており, 具体的な調査項目は以下に示すとおりである。

■回答者の属性および勤務校の状況(フェイスシート)

学校種：調査協力者の勤務校の種類を選択するよう求めた(①小学校, ②中学校, ③義務教育学校, ④中等教育学校)。

担任する学年：調査協力者が担任を担当する学年を選択するよう求めた(①小学校・第1学年, ②小学校・第2学年, ③小学校・第3学年, ④小学校・第4学年, ⑤小学校・第5学年, ⑥小学校・第6学年, ⑦小学校段階・学級担任以外, ⑧中学校・第1学年, ⑨中学校・第2学年, ⑩中学校・第3学年, ⑪中学校段階・学級担任以外)。

勤務校の地域：調査協力者の勤務校の地域を選択するよう求めた(①北海道, ②東北, ③関東, ④甲信越, ⑤北陸, ⑥東海, ⑦近畿, ⑧中国, ⑨四国, ⑩九州・沖縄)。

年齢層：調査協力者の年齢層を選択するよう求めた(①20～29歳, ②30～39歳, ③40～49歳, ④50～59歳, ⑤60歳以上)。

道徳教育主担当の有無：調査協力者が道徳教育推進教師(道徳主任)など, 学校における道徳教育や道徳科の指導を推進する分掌を担当しているか否かを求めた(①担当している, ②担当していない)。

■道徳授業について思っていることや, 考えていること(A)

道徳授業に対する印象(A-1)：道徳授業の印象に関する12項目について4件法(①そう思わない, ②あまりそう思わない, ③わりとそう思う, ④そう思う)で回答を求めた(①おもしろい, ②充実している, ③満足している, ④授業が好きだ, ⑤魅力を感じる, ⑥子どもが変わる, ⑦たいへんだ, ⑧苦手だ, ⑨やりづらい, ⑩疲れる, ⑪負担を感じる, ⑫ゆううつだ)。

道徳授業の効果(A-2)：道徳授業を行うことでの効果に関する10項目について4件法(①役に立たない, ②あまり役に立たない, ③わりと役に立つ, ④役に立つ)で回答を求めた(①いじめや非行の防止, ②日常の生活習慣の改善, ③規範意識の向上, ④人間関係作り, ⑤自尊感情の向上, ⑥自制心の向上, ⑦生活への意欲の向上, ⑧学力の向

上、⑨主体性の向上、⑩充実した生き方)。

授業実施の中で悩んでいること(A-3)：調査協力者が道德の授業を実施する中で悩んでいることについて自由記述で回答するよう求めた。

道德授業において特に意識していること(A-4)：調査協力者が道德の授業において他の教科などと違って特に意識していることや実践していることについて自由記述で回答するよう求めた。

■道德授業についての様子や、工夫していること(B)

道德授業の様子(B-1)：道德の授業の様子に関する 10 項目について、5 件法(①わからない、②そう思わない、③あまりそう思わない、④割とそう思う、⑤そう思う)で回答を求めた(①教師が中心になって進める授業になっている、②子どもが自ら進める学習になっている、③指導方法が多彩で様々に工夫されている、④子どもの自由な発想が生かされている、⑤子どもの議論の機会が十分にある、⑥進め方がいつも同じような感じである、⑦授業が教師の思いどおりにいっていない、⑧みんなの考えが違っていてまとまらない、⑨国語と同じような授業になっている、⑩ほかの教科などより軽視されている)。

学級担任をしているか(B-2)：調査時点で学級担任をしているか否かについて回答を求めた(①はい、②いいえ)。

授業で取り入れている工夫(B-2)：上記(学級担任をしているか)で「はい」と回答した調査協力者に対して、道德授業で取り入れている工夫に関する 10 項目について 4 件法(①0 回、②1~2 回ぐらい、③3~5 回ぐらい、④それ以上)で回答を求めた(①ICTを活用する学習を取り入れた、②役割演技や動作化などの表現活動を生かした、③学級目標や生活のめあてと関連を図った、④各教科や総合、特別活動などと関連させた、⑤学級の人間関係の問題を直接取り上げた、⑥1 時間ずつでなく、複数の時間をつなげた、⑦ゲストを招いたり複数の教員で行ったりした、⑧教科書にはない教材を中心教材として用いた、⑨時事的な問題やニュースなどを生かした、⑩映像教材や放送教材を生かして進めた)。

効果・手応えがあったと感じた教材・授業(B-3)：調査協力者が行った授業の中で特に効果があった、手ごたえがあったと感じた授業について自由記述で回答を求めた。

自分に活かしたい授業(B-4)：調査協力者が見た道德授業の中で大変よかった、自分に活かしたいと強く思った指導について自由記述で回答を求めた。

■道德の授業についての期待や、これからに向けた考え(C)

「特別の教科」である道德科に対する意見(C-1)：「特別の教科」である道德科への意見に関する 10 項目について 4 件法(①そう思わない、②あまりそう思わない、③わりとそう思う、④そう思う)で回答を求めた(①教える内容(項目)を、もっと減らす方がよい、②教科書以外の教材も、もっと活用できるようにするとよい、③誰もがやりやすい授業のやり方をマニュアル化するとよい、④道德授業こそデジタルやICTをもっと活用するとよい、⑤毎週 1 時間ずつと決めないで、もっと柔軟にしたほうがよい、⑥担任以外の教員が交代して進める授業をもっと行うとよい、⑦学年全体で行うなど、合同の授業をもっと行うとよい、⑧道德専門の教員が複数の学級を担当できるようにするとよい、⑨保護者や地域の人などを招く授業をもっと行うとよい、⑩小学校と中

学校で道徳授業のやり方をもっと変えるとよい)。

授業で行いたいテーマ(C-2)：行いたい授業のテーマに関する 10 項目のうち当てはまるもの全てを選択するよう求めた(①A I の時代に私たちはどう生きるか，②ボランティア～人と共に生きる，③だれもが同じ人間～分けへだてのない生き方，④いじめはなぜなくなるのか，⑤今だからこそ，伝統や文化を大切に，⑦自分らしい生き方や生きがいを考える，⑧みんなが幸せになれる生き方とは，⑨SDG s をみんなで考えよう，⑩多様性(ダイバーシティ)を考える，⑪その他(自由記述))。

これからの道徳授業への期待と改善すべきこと(C-3)：道徳授業について期待することや改善すべきことについて自由記述で回答を求めた。

◆ 結果 ◆

1 回答者の属性および勤務校の状況

小学校および中学校段階の教員を対象とした分析結果を以下に示した。表3から表5では、担任する学年、年齢層、勤務校の地域について、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の人数、割合を示した。

表3 担任する学年

	小学校段階		中学校段階	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
第1学年	94	13.9	151	32.1
第2学年	101	14.9	135	28.7
第3学年	111	16.4	126	26.8
第4学年	99	14.6	—	—
第5学年	102	15.1	—	—
第6学年	95	14.1	—	—
学級担任以外	30	4.4	42	8.9
2つ以上回答	44	6.5	17	3.6
合計	676	100.0	471	100.0

注：「—」は該当がないことを示す。

表4 年齢層

	小学校段階		中学校段階	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
20～29歳	183	27.1	154	32.7
30～39歳	188	27.8	152	32.3
40～49歳	150	22.2	88	18.7
50～59歳	130	19.2	55	11.7
60歳以上	25	3.7	22	4.7
合計	676	100.0	471	100.0

表 5 勤務校の地域

	小学校段階		中学校段階	
	<i>n</i>	%	<i>n</i>	%
北海道	39	5.8	12	2.5
東北	46	6.8	47	10.0
関東	209	30.9	141	29.9
甲信越	44	6.5	41	8.7
北陸	19	2.8	8	1.7
東海	86	12.7	69	14.6
近畿	63	9.3	38	8.1
中国	54	8.0	24	5.1
四国	36	5.3	27	5.7
九州・沖縄	80	11.8	64	13.6
合計	676	100.0	471	100.0

A 道徳授業について思っていることや、考えていること

(A-1) 道徳授業に対する印象

図2, 図3, 図4, 図5では, 調査協力者の「道徳授業に対する印象」に関して, 学校段階別に, 小学校段階および中学校段階の割合を示した。

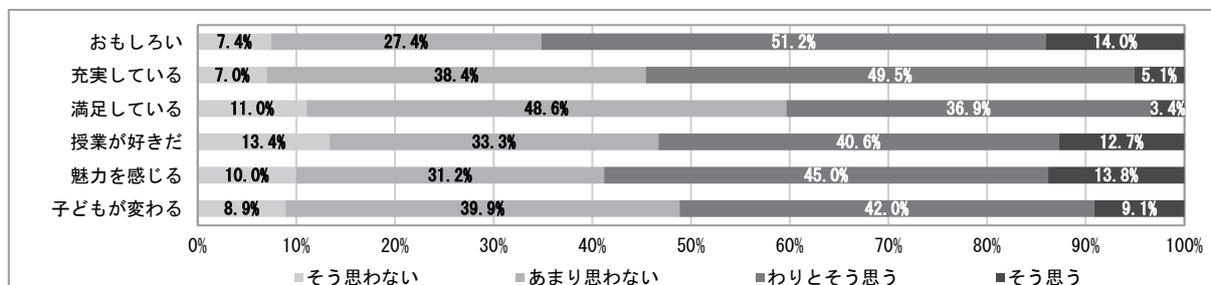


図2 道徳授業に対する肯定的な印象:小学校 (n=676)

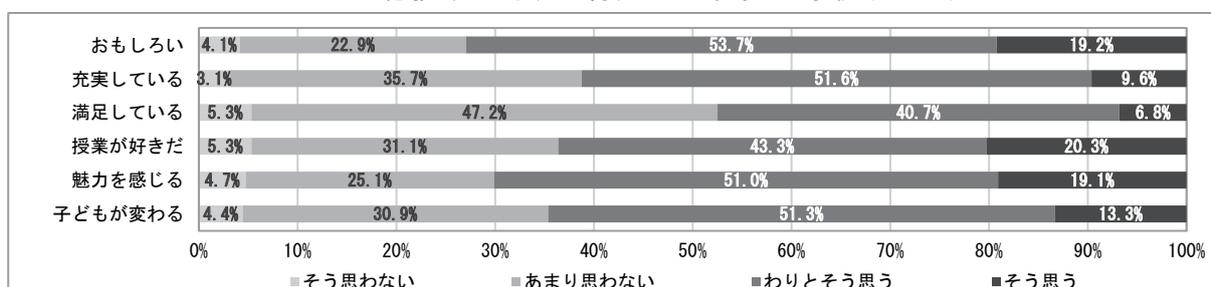


図3 道徳授業に対する肯定的な印象:中学校 (n=471)

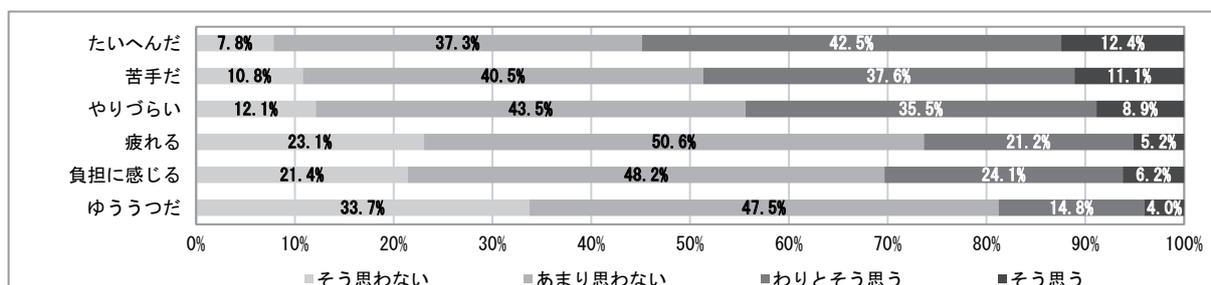


図4 道徳授業に対する否定的な印象:小学校 (n=676)

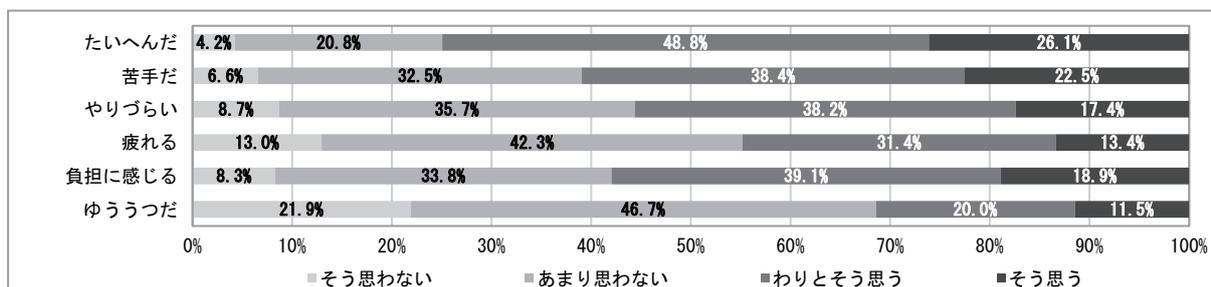


図5 道徳授業に対する否定的な印象:中学校 (n=471)

図2・図3に示す肯定的な印象は, 小学校, 中学校ともに全体的に高く, 多くの教員が道徳の授業に対して前向きな印象を持っていることがうかがえる。特に, 小学校教員の方が, 中学校教員よりも強い肯定的な印象を示している。一方, 図4・図5に示す否定的な印象については, 小学校では授業の難しさに関する項目に集中しているのに対し, 中学校ではほぼすべての項目において, 教員が一定の悩みを抱えている状況が示された。

(A-2) 道徳授業の効果

図 6, 図 7 では, 「道徳の授業を行うことによる効果」に関して, 学校段階別に, 小学校段階および中学校段階の割合を示した。

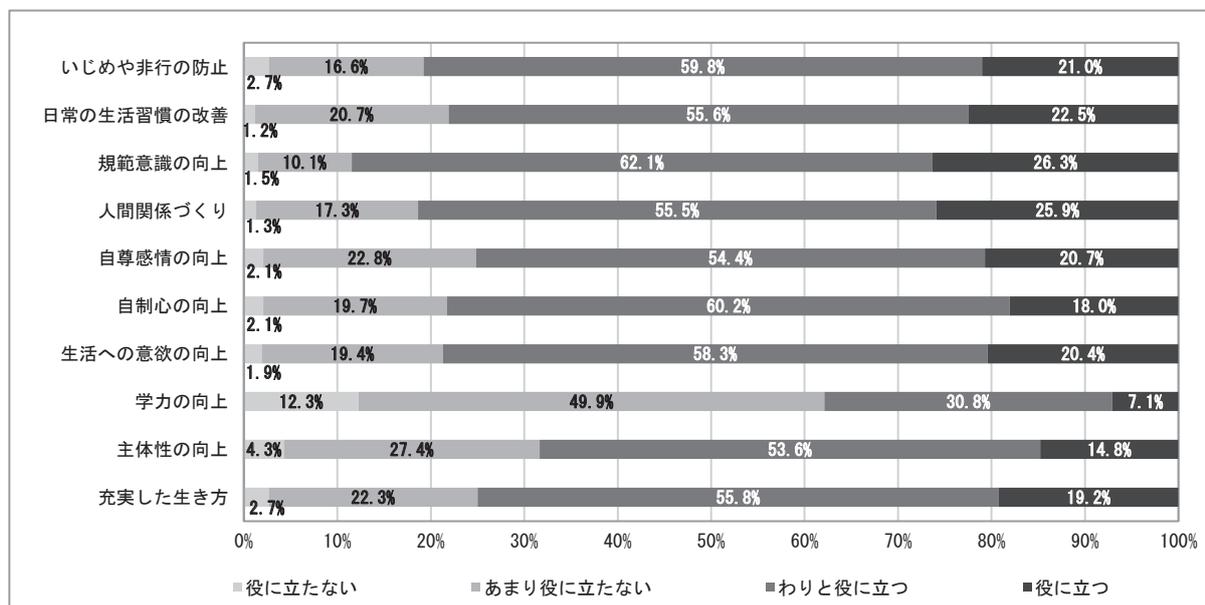


図 6 道徳の授業を行うことによる効果: 小学校 (n=676)

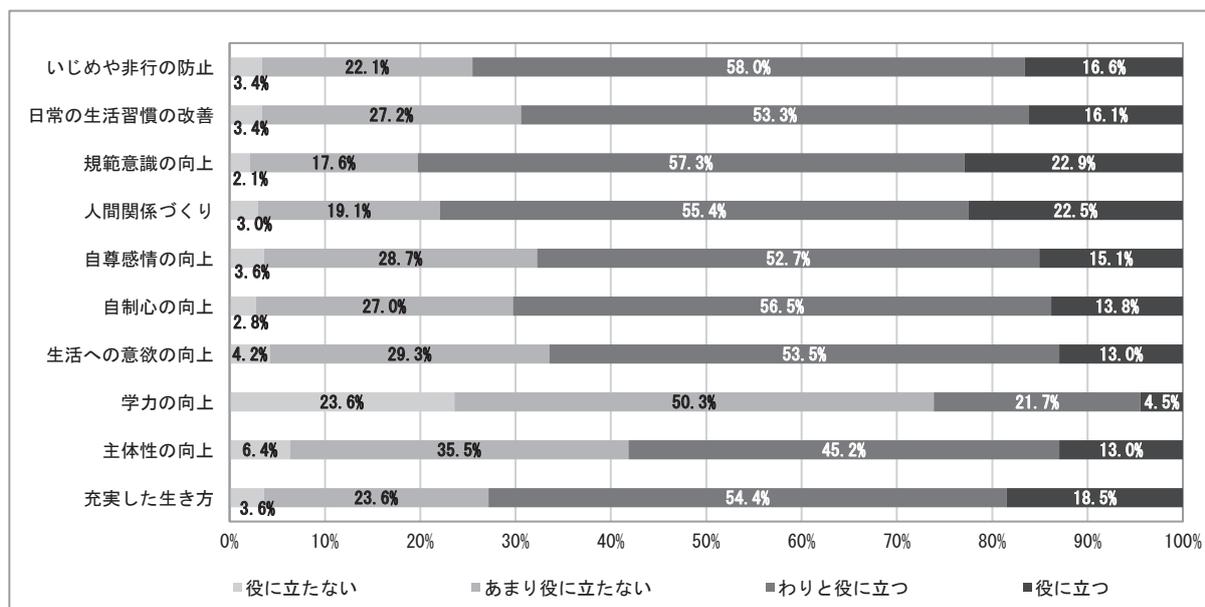


図 7 道徳の授業を行うことによる効果: 中学校 (n=471)

前半の項目は人間関係に関する内容が含まれており, 小学校, 中学校ともに「わりと役に立つ」「役に立つ」といった肯定的な回答が多く, 道徳授業の効果が共通して実感されている。その中でも, 小学校の方がより強く実感しており, 道徳授業が小学校段階では学級生活や日常生活の改善により直接的な影響を与えていると考えられる。後半の項目についても, 全体として「役に立っている」と感じる教員の割合は高い。「学力の向上」はやや低めではあるが, 小・中学校ともに一定数が肯定的に捉えている。小学校と中学校の違いについては, 特に「自制心の向上」や「主体性の向上」といった非認知能力に関する項目において, 小学校の方が道徳授業の効果をより強く感じている。

(A-3) 授業実施の中で悩んでいること

分析に先立ち、「授業実施の中で悩んでいること」に関する自由記述を分類するため、コード表を作成した(表6)。

表6 「授業実施の中で悩んでいること」コード表

カテゴリー	下位カテゴリー	含まれる内容の例
教科書・教材に関すること	教材の内容	面白くない 答えありきの内容 理想的すぎる 共感しづらい 思考を揺さぶられない 実態にあっていない 使いづらい 分量が長すぎる 副読本に不十分さ 補助教材が少ない 考えさせたいことと題材にずれ
	教材の扱い方	限界を感じる 強制使用の圧 教科書の扱い方(読み方) 授業づくりが難しい教材 教材と価値観の適応性 デジタル教科書
教具に関すること	ワークシートやノート	ワークシートの作り方 テンプレートと子どもの実態の乖離 設問と教師が問いたいことのずれ ワークシートと所見 ノートが使いづらい
	ICTの活用方法	デジタル教科書の活用方法 ICTの効果的な活用方法 ノートとICTの使い分け方
指導書に関すること	指導書	実践事例集が少ない 指導書の反応例と実際の差 難しい設問が多い 授業の展開方法が書かれていない
授業の準備に関すること	教材研究	実態に即した題材の選定 教材の選定方法 授業準備の方法 子どもの反応を予想した教材研究
	授業づくり	面白く考える授業 関心を持たせる授業 心に響く授業 考えを深める授業 内面に迫る授業 納得解を持たせる授業 子どもが価値を見出す授業 心を揺さぶる授業展開 主観的に向き合わせる方法 抽象的な価値観の伝え方 国際理解の説明 国語的な授業 管理職による授業観の差 自治体と指導書間の指導展開にギャップ
授業の実施に関すること	授業展開	導入 終末 意見交換後の展開 意見の拡散と収束 授業のねらいの達成の方法 時間配分 臨機応変な展開 効果的な活動形式 教材提示の方法 生徒とともに作る授業 主体的な考えを促す授業 子どもの意見を拾った授業展開 葛藤場面の作り方 振り返りの方法 雰囲気づくり 指導書の本筋と子どもの発言の解離をうまない展開 一度の授業で修正が効かない 質の向上を図れない 一問一答にならない授業 学級経営が反映される
	発問・問い返し	効果的な発問 思考を促す発問 揺さぶる発問 意見が深まる発問 実態に合った発問 役割演技をする時の発問 自分事にするための発問 問いかけ方 タイミング
	意見交換や議論の展開方法	対話を充実させたい 交流の方法 全員が真剣に議論する難しさ 多面的多角的な考えを引き出し議論させる方法 話し合いの方向がそれたときの指導方法
	板書	板書計画 効果的な板書 構造的な板書 関心をもたせる板書 子どもと作る板書 思考を視覚的に整理する板書
	関連的指導	実態に即した授業 実態に合った内容項目の選び方 結びつきを促す授業展開 絡めることが難しい教材の扱い方 子どもの実生活での経験が少ない

子どもの様子に関すること	子どもの意欲	反応が薄い 意欲が低い 教材によって意欲に差集中して取り組むことができない
	本音と建て前	本音と建前の解離 発言に本音と建て前を感じる
	子どもの理解度	難しい内容項目がある 内容項目による深まり方に違いがある精神的な幼さ 考え方の狭さ
	発言	発言が少ない 意見が活発に出ない 発言者の固定化
子どもへの支援・指導に関すること	全体に対する支援・指導	ノート指導の仕方 読み物教材の指導 ワークシートの活用 道徳的価値に迫る指導 自分事を促す指導 多様な考えの認め方 児童への落とし込み方 課題意識をもたせる指導 教材内容と価値項目の結びつけ方 新たな気づきを得るための指導 納得解を持つための指導方法 自発的な発言を促す指導 個別最適な学びの進め方 低学年に対する指導方法 高学年の意見を言うことに対する抵抗
	個々の子どもに対する支援・指導	正解を求める子ども 道徳が嫌いな児童 積極的ではない生徒 内容理解が難しい児童 授業の意図に反する児童 自分の考えをも持つことが難しい児童 特性により気持ちの理解が難しい子ども 外国籍児童
	少人数学級での指導の困難さ	発達段階に合わない題材がある 多様な考えが生まれにくい
	特別支援学級での指導の困難さ	考えが深まらない 教え込みに近い 様々な考え方や感じ方に触れさせる
指導のあり方に関すること	指導に対する不安	価値の押し付けになる 教師自身の経験が価値理解に影響する 毎回似たパターン 発達に貢献できているか 学んだことが役に立っているか 道徳授業の効果
	指導力の不十分さ	教師自身の経験談が少ない 教師の力量差が授業に大きく影響 子どもを変える知識・技量が低い
	教師の意欲	教師間に温度差 授業の深まりに差 道徳の知識ややる気のない教員
	研修・研究	研修での学びを実践に活かさない 教員への指導 教師間で研修を行う時間的ゆとり 校内での授業改善の方法
評価に関すること	見取りの方法の難しさ	子どもの見取り方 子どもの変化の見取り方
	評価の難しさ	評価しづらい 副読本以外を用いた授業の評価方法
連携や体制に関すること	教師間連携の不十分さ	他の先生と事前の打ち合わせが取れない 相談する相手がいない 教師間の授業案の共有
	家庭との連携の必要性	家庭との連携による道徳教育 学校のみで教えることの限界
	時数確保の難しさ	時数を定期的に確保できない 総合や学活をしてしまう
余裕のなさに関すること	時間的ゆとり	教材準備の時間的ゆとり 教材研究の時間の確保 評価する時間的ゆとり
	負担	教材研究の負担 授業準備の負担 担任が授業を持つ負担 場面絵の印刷が手間 説話を考える負担 授業を自分で考える大変さ 毎週題材が変わる大変さ

① カテゴリー別回答数

学校段階別に「授業実施の中で悩んでいること」に関する自由記述を「授業実施の中で悩んでいること」コード（表6）に従い分類した結果を図8，図9に示した。なお，一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は，それぞれを分割して分類し，複数回カウントした。

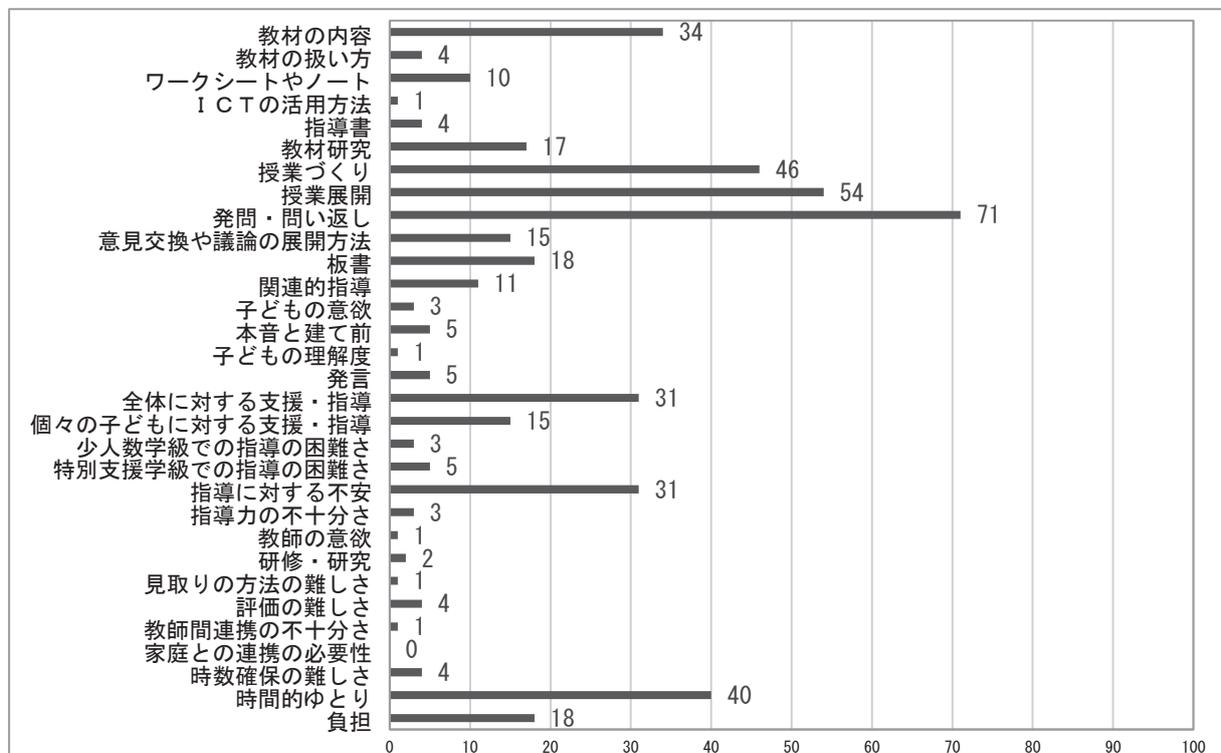


図8 小学校教員の「授業実施の中で悩んでいること」の自由記述を分類した結果（ $n=351$ ）

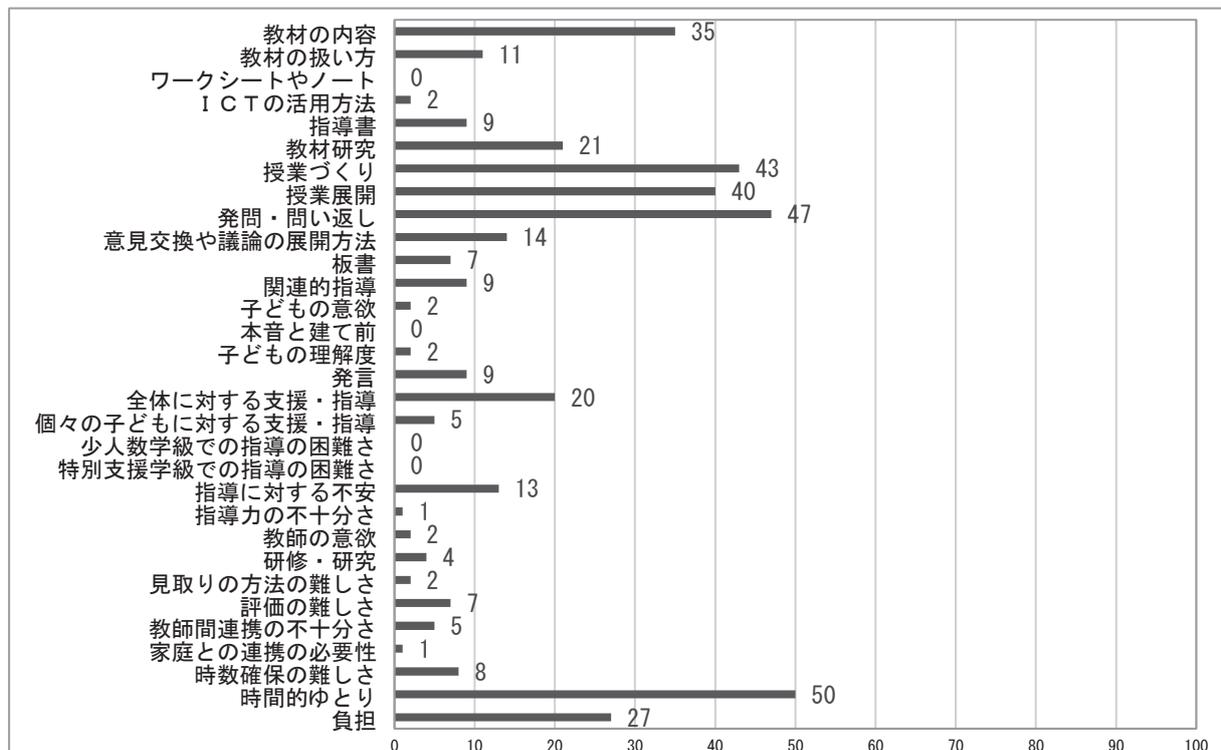


図9 中学校教員の「授業実施の中で悩んでいること」の自由記述を分類した結果（ $n=289$ ）

② カテゴリー別回答例

学校段階別に、「授業実施の中で悩んでいること」に関する自由記述を「授業実施の中で悩んでいること」コード（表6）に従い分類した回答例を表7に示した。

表7 「授業実施の中で悩んでいること」に関するコード別の回答例

		小学校	中学校
教科書・教材に関すること	教材の内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年の教材の内容が個人の能力に合っておらず、理解することが難しい。 ● 教科書の内容が、自分の学級や学校の実態と合わないことがある。 ● 児童が「こう答えてほしいんでしょ？」と感じる教材が多く、思考が揺さぶられないのでこちらも面白くない。 ● 教科書の題材で、「こういう生活が望ましい」というモデルのような例が多いこと。もう少し、人間の泥臭い部分などが垣間見えるようなものがあればいいと思う。 ● 学年によって国際理解など児童の身近ではない話になると理解が難しく感じる。 ● 時代背景を捉えることが難しい教材のときに、扱いにくいと感じます。 ● 教科書の内容や例にした内容と指導事項が繋がらないことがある。 ● 教科書化されているが、付属の教材などがなく、紙芝居のようにスライドを作ったり、挿絵を作ったりするのが大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 分かりやすく魅力のある教材が少ない。 ● 教科書の内容が腑に落ちないことがある。 ● 実際の生徒との姿とはかけ離れている話がある時に、授業の展開に困る。 ● 教科書の話の内容を理解することが生徒にとって難しいものがある事。 ● 子どもたちに考えさせたいことが教科書の題材と必ずしも一致しないこと。 ● 子どもたちが楽しく授業に取り組めるように、導入部分ではなるべく体験活動を取り入れたいが、教材によって難しいものがある。 ● 教科書の文が長すぎる事。そのため、考えを深めることができない時がある。 ● 動画などの補助教材が少ないので、自分で準備するのが手間。 ● 副読本でない内容をどの程度実施してよいのか。 ● 副読本以外の教材を指導する際の価値項目に迷うことがある。
	教材の扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書が代わり、挿絵が印刷しづらくなったこと。 ● 教科書を使わないといけないという考えに縛られてしまうことです。もっと子どもたちに身近な話で授業をしたいなと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書を強制しようという圧力。 ● 読むか読まないか読ませるか。 ● 教科書に載っている資料に使いつらいものが多い。 ● 読み物を読んで…という方法に限界を感じるときもある。もっと生きた題材でやった方が良いときもある。 ● 読み物教材による登場人物の心情の読み取りや、心の有り様の授業だけでは、子どもたちの背景にある様々な課題に十分せまれないと感じている。
教具に関すること	ワークシートやノート	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートの作成。 ● ワークシートが所見に合わない。 ● ワークシートのテンプレートはあっても、子どもの実態と異なることがほとんどで使いづらい。 ● ノートが使いにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● タブレットとノートの使い分け方。
	ICTの活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● ICTを効果的に活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の授業でのICTの活用。

注) 自由記述の回答の一部について、趣旨を損なわない範囲で調整している。

指導書に関すること	指導書	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが意欲的になる授業展開の方法を題材ごとに知りたい。 ●問いが子どもたちにリンクしていないように感じる。単純に子どもたちをのせることがむずかしい。 ●指導書を参考に授業を進めているが、児童の実態(生活環境も含め)にそぐわず、やりづらさを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指導書の生徒の反応の例と生徒の実態がだいぶ異なるので、毎回授業の構想に時間がかかる。 ●授業を考える暇がない。教科書の指導書が良いものとは言えず、毎回一から作っている。 ●実践事例集が少なく、毎回自分で考えるのが大変。指導案ではなく、アイデア(導入にこういうことをする)などを共有できる所があればいいと思う。
授業の準備に関すること	教材研究	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の意識を上げるための教材研究。 ●教材研究。教材や道徳的価値の理解に時間がかかる。 ●教材研究です。自分の予想と違う返答がきたときに、対応できる授業とそうでない授業がどうしてもあるので、子どもの心を想像しながら授業するのは難しいなと毎回思います。 ●児童の実態に合わせて授業を考えたいが、指導書から離れるとねらいとしていたことができているのかが心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教材研究。 ●魅力ある教材を見つけることが難しい。 ●学校行事や生徒の様子に合った道徳授業づくり。
	授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●深め方が難しい。 ●面白く、考えることが出来る授業を考えるのが大変。 ●子どもの関心を持たせるための授業づくりの工夫。 ●児童の内面に迫る実践がなかなかできない。 ●価値を押しつけるのではなく、児童がその価値を見出す授業がなかなか出来ない。 ●考え、議論する道徳の授業を目指しているが、どうにも難しいです。 ●自分事として児童が考えられる授業が出来ていない。 ●どうしたら児童が自らの課題として道徳的価値について考えを深められるかの導入の工夫について。 ●いのちに関わる単元の取扱い方。 ●感動や畏敬の念の授業の作り方のバリエーションが自分の中に少なく、悩んでいます。 ●国語の読み取りにならないように気をつけること。 ●A区では道徳科の授業時間がないので、ほかの時間に道徳科の授業を使った指導を行うことの難しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●深く考えさせることが出来ない。 ●心に響く授業をすることが難しい。 ●考え議論する道徳をどう構築するか。 ●なかなか子どもたちが充実した学びを得られるような授業ができない。 ●毎回テーマが変わるのでその都度生徒の興味をひきながら授業をすることが難しいです。 ●生徒が「自分ごと」として考える場面を、授業の展開の中でどう設定するかということ。 ●正義、公正などの抽象的な価値観を、どのように伝えるか。 ●日本文化や郷土愛など。教え込みというか紹介になりやすくなる。 ●教科書を使用すると国語の読み取りになってしまう。 ●教材研究の準備する時間や管理職によって授業に対する考え方が違うこと。

授業の実施に関する事	授業展開	<ul style="list-style-type: none"> ●意見の収束、まとめが難しい。 ●子どもの声に応じた臨機応変の展開が難しい。 ●終末に悩む。どんな問いで振り返らせればいいか、じっくりくるものがない。 ●児童が主体的に考える授業の流れにするにはどうしたらいいか悩みます。 ●子どもたちに葛藤させる場面をいかに作っていくか。 ●綺麗事ばかり子どもたちから出るが、実際にはもっとマイナスな思考もあると思うので、その意見を引き出したい。 ●児童が予想外の発言をして授業の流れがそれてしまったときの軌道修正が難しいこと。 ●授業1時間の中でいったん終わらせなければならぬこと。 ●教師の考えるゴールの方向に導いてしまう傾向にある事。 ●道徳授業の中で、振り返りの方法や内容が難しい時がある。 ●話を聞くなどの学級経営が反映される点。 	<ul style="list-style-type: none"> ●葛藤させる場面の持って行き方。 ●いろいろな意見が出しやすい雰囲気づくり。 ●生徒が真剣に取り組む雰囲気づくり。 ●自己の弱さなど、内面にかかわる主題に、どのように迫るか。 ●主体的に考える道徳授業はどうすればいいか試行錯誤が常に続いています。 ●一度で終わるので、うまくいかないとなかなか訂正や修正が効きにくい。次回にもう一度などの難しいと感じる。
	発問・問い返し	<ul style="list-style-type: none"> ●中心発問の作り方。 ●中心発問のタイミング。 ●子どもの思考を揺さぶる発問。 ●児童の実態に即した発問が難しい。 ●どのような発問をすると、児童の思考が活性化されるのか。 ●子どもが発言したくなる発問を考えるのが難しい。 ●子どもたちの議論が活発になる発問を考えること。 ●しっかりと返しをし、学びを深めることが出来ない。 ●一問一答の授業にならないようにしたいがなかなかできない。 ●児童一人一人の意見や考えをつないでいく言葉。 	<ul style="list-style-type: none"> ●考えさせる発問。 ●意見の拡散と収束が苦手。 ●子どもの興味をひく発問。 ●子どもたちの心を耕すような発問。 ●中心発問に向けて、一貫した発問の立て方。 ●価値に迫るための主発問について、日々の授業の中で考えています。 ●主発問をどこにすれば生徒にとって良い学習になるかに悩むことがある。 ●考えを深めさせるときの、切り返しの発問。
	意見交換や議論の展開方法	<ul style="list-style-type: none"> ●活発な議論をするのが難しいこと。 ●全員が真剣に議論するのは難しい。 ●話し合いになりにくい。意見の発表で終わってしまう。 ●多角的多面的な考えを引き出し議論させる方法。 ●価値について話し合う際に、深まりが浅いことがある。話し合い活動の充実が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合いの時間の持ち方。 ●生徒同士の意見が充実しない事。 ●生徒からの意見があまり引き出せず、考えが深まらない。活発な話し合い活動を行うことが難しい。

授業の実施に関する事	板書	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造的な板書。 ● 板書のタイミング。 ● 子どもと作る板書。 ● 思考を視覚的に整理する板書。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 効果的な板書。 ● 板書計画の立案。 ● 授業終末に見て1時間の流れやその日考えたことが分かるような板書。
	関連的指導	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の生活経験との関連が難しい。 ● 生活指導事項に絡めて授業を行うなどすると、やりにくい教材がある。 ● いかに児童の実態に即したものになるかを考えること。 ● 実生活に結び付けられるような声掛けができていない。 ● 児童の体験、経験に差があること。また、コロナ禍の影響か他者にあまり目がいかないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● より、生徒の日常生活に根差した内容にすること。 ● 実生活の中で実生活の中で地域の人への支えや地域の人への繋がりを実感できるような機会があまりなく、綺麗事のような意見しか出てこなかったり、他人事のように考えている生徒が多かったりしてしまうこと。 ● コロナ禍の影響や家庭の経済状況の関係で実体験が少ない生徒がかなりいる。
子どもの様子に関する事	子どもの意欲	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童も他の教科に比べ意欲は低い。 ● 子どもが集中して取り組むことに課題を持っている。 ● 教材によって子どもの乗り方に差があると感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒は授業で持て余していることが多いと感じてしまう。
	本音と建て前	<ul style="list-style-type: none"> ● 本音と建て前の乖離。知識としては分かっているが、適切な道徳的判断力が育たない、実践力につながらないと感じること。 ● 低学年のうちには子どもたちが純粋で、擦れたことは言わないとしても道徳は有効だが、学年が上がるにつれて「大人が求める模範解答」「担任に忖度」する子どもが出てきて、学級集団全体に広がる。 	
	子どもの理解度	<ul style="list-style-type: none"> ● 難しい内容項目がある。 ● 考え方が浅いと感じること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 内容項目によって、深まり方に違いがある。 ● 生徒の精神的な幼さ、考え方の狭さ。
	発言	<ul style="list-style-type: none"> ● 挙手が少ない。 ● 子どもから活発に意見が出ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見があまり活発に出ない。 ● 指導書通りにやってみるが、思っているほど意見が出ない。 ● 授業で発言する人が同じになってしまう。

子どもへの支援・指導に関すること	全体に対する支援・指導	<ul style="list-style-type: none"> ● どうやって道徳的価値にせまるか。 ● 子どもたちにどうしたら真剣に考えてもらえるか。 ● 多様な考えがある中で、教材の内容と価値が結び付けていいものか迷うこと。 ● 児童一人一人が、納得してその価値観を獲得するためには、どのような指導をしていけばよいか。 ● 自分のねらっているねらいにつながらない話し合いとなった時の対応について。 ● 1年生に分かりやすく伝えたり、考えを書きやすいワークシートを作ったりすること。 ● 高学年ほど自分の意見をいうことに抵抗があり、発表が少ないため議論にならない。 ● 思春期・反抗期の児童が多数おり、道徳の授業を行っても道徳的価値を見出しきれない児童がいる。道徳的価値を見出せず、自分本位の考え方に固執していることが悩みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の意見を広げることが出来ない。 ● 生徒から出た問いを主価値に迫らせるための教師のコーディネートをどうするか。 ● 教科書を進める中で、どうしても国語的な読取りが必要な部分があり、そういったところで躓く生徒へどのように支え、自分の考えを持たせていくか。 ● 中学生という多感な時期に、生活と結びつく教材をいかに提供できるか。道徳の時間に学習したからといって、生活や人間関係の向上に結び付かないことが多い(小学校道徳の教科書内容が中学生にちょうど良いのかもしれないという印象)。
	個々の子どもに対する支援・指導	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の考えが書けない子への対応。 ● 極端に間違った考え方をもつ児童の意見を多様と肯定すべきか否か。 ● 特別支援学級を担任しているため、特性から相手の気持ちを理解できないことが多々ある。教材から自分事へなかなか移行できないこともあり、自閉スペクトラム症をもっている子たちの授業のすすめ方に難しさを感じている。 ● 外国籍児童の母国語のない児童の道徳授業については、日々悩んでいる。学年を落として、同じ外国籍児童と合わせて授業をしているが、文化の違いからか道徳そのものよりもSSTから入ったりSSTでまとめに持って行ったりしていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的でない生徒への指導が難しい。 ● 生徒が意見を言わない。形式的なことしか答えない。 ● 生徒は自分の思いよりも、模範解答を書こう(言おう)とする。そこを引き出していくのはかなり難しいです。
	少人数学級での指導の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数なので、多くの考えが出ない。 ● 小規模校ということもあり、話があまり深まらない。発問が難しい。 	
	特別支援学級での指導の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の理解や話し合いが不十分で、教え込みに近い授業になってしまう。 ● 特別支援学級担任で、複数学年を担当していて学年一人しかないので、考えが深まらないことが多い。 ● 教材での学びから自己の生活や生き方に照らし合わせるのが難しいようで、例を挙げても、自分事として捉えることが難しいようで、どうしたらよいか悩む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特支担当で意見を言える生徒に限られる。対象にした生徒が休む場合が多い。

指導のあり方に関すること	指導に対する不安	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の発達に貢献できているか不安。 ● いろいろな意見を認めていますが、価値の押し付けになっていないか不安で行っています。 ● 授業を通して伝えたいことがきちんと子どもたちに伝わっているかどうか。 ● 子どもたちの心を揺さぶる、学んだことが実際に役に立っているか不安である。 ● 自分の授業のパターンができてしまい、子どもにとって面白くないのではと思うことがある。 ● 教科書通りにしてしまっているの、いつも同じ形の授業になってしまっている。色々なやり方で授業をしてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材によって押し付けがましくならないか。 ● 教科書であるので、画一的になり、伝えづらい。 ● 本当に生徒のためになっているかわからない。 ● 道徳が普通の生活に役立っているか不明です。ただこなすだけの教科になっているのでは、と危惧しています。 ● 今自分がやっている授業が生徒にとってよい作用になっているのかわからずに授業を終えてしまう点。 ● 自分が中学生の時に今のような道徳の授業を受けることはなく、また学生するときにも道徳の授業の指導法を学んできていないため毎回これでいいのかと不安でならない。
	指導力の不十分さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身が道徳の授業から子どもたちを変えていくだけの技量や知識が低いと感じている。 ● どこまで考えさせるか、どこまで関わらせるかを判断しながら、計画を立てたり実践したりする部分が、教員の力量差が大きく関係してくるであろうところ。 	
	教師の意欲	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の授業に対して無知だったり、やる気のない教員が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師間での温度差があり、クラスの深まりに大きな差がある。 ● 先生方が苦手な価値項目の授業になると、敬遠しがちである。
	研修・研究	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内で職員の授業改善。 ● 他教科に比べ教員への指導が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の業務がありすぎて、満足な教材研究と教員同士の研修ができない。
評価に関すること	見取りの方法の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の授業をやったからなのかその子の持つ本来の力なのか見取りが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● どこまで生徒に伝わっているか。 ● 生徒の変化が読み取りづらい。
	評価の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価の仕方。 ● 評価をしなければならないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価がしづらい。 ● 評価に意味が見いだせない。 ● 内容項目がすべて網羅できているということはどう評価すればよいか。

連携や体制に関すること	教師間連携の不十分さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 交換授業を行う際の各学級の実態の把握と授業の進め方について検討する時間がないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年で取り組んでいることだからこそ、学年の担任で集まって相談する時間などを確保したい。それらができない状況がとても苦しく、十分に考えられた授業を行えない原因であると感じる。
	連携の必要性		<ul style="list-style-type: none"> ● 学校と家庭で教えていく必要がある。いくら学校が頑張っても指導しても定着しないし、限界がある。
	時数確保の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎週はしていない。できないこと。 ● 地域柄、毎週はできていない。普通の道徳の授業をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の時間を定期的に確保できない。授業コマとしてきちんと確保してほしい。 ● 教科書を使った授業時数を、年間 35 時間計画しているが、別の教材を使った授業時間を捻出する必要があると聞いたことがある。時間がない。
余裕のなさに関すること	時間的ゆとり	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材を作成する時間がない。 ● 授業準備の時間をとるのが難しいこと。 ● 教材研究にかける時間確保が難しいこと。 ● 教材研究に時間をかけたいのに、時間が取れない。 ● 授業づくり。その他の教科の準備もあるので、毎回指導書を見ながらその通りの授業をしてしまう。もう少し練る時間が欲しい(アンケートなど)。やることが多い。間に合わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音読の練習ができないときもある。 ● 教材研究に時間を奪われることが多く、いい授業をしたいと思う気持ちはあるが、別のことに時間を割いてしまって結局中途半端な状態で授業をやる事が多くなってしまふ。 ● 評価をする時に生徒の振り返りを参考に文章表記の評価をしているが、本来の「評価」を考えると教師が一人一人の考えや変化をみとって評価するはずだが、現状、生徒の自己評価で評価している。だからといって担任が一人一人をみとって評価する時間はなく、もどかしい。
	負担	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材や道徳的価値の理解に時間がかかる。 ● 毎回違う教材なので、教材研究が大変。 ● ほかの教材を用意すべきだと考えるが、そこまでの余裕がなく、また、適した教材を見つけ出すことが困難である。 ● 最後、振り返り後の教師の説話の内容を考えると負担です。いかに子どもたちの心に響かせることを伝えるか考えるのが難しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書の教材が実態に合わない。教材を自分で探してくるのが大変。 ● 教科と違い、自分の得意な分野もあればそうでない分野もあるので、事前の準備に時間がかかる。 ● 学担の負担が大きいこと。教材研究が大変。 ● 他業務を抱えながら、毎週道徳の授業の準備をしていくことに負担を感じてしまう先生方は少なくないように思います。

「授業実施の中で悩んでいること」に関する意見についてカテゴリーを定めて分類した結果、授業の準備及び授業の実施に関する悩みや不安が多く挙げられた。授業を行う中で、子どもの意欲の低さや、指導が役に立っているか実感しにくいことから、興味を持たせながら考えを深め、生活に生かすことのできる授業づくりが必要であると教員が感じているためであると考えられる。学校種別で比較すると、小学校では「発問・問い返し」や「授業展開」が多く、児童が学びを深めることのできる授業づくりを重視していることが分かる。中学校では「時間的ゆとり」の回答が多くみられ、道徳授業を充実させるための時間の確保が求められていることが示唆された。

(A-4) 授業において特に意識していること・実践していること

分析に先立ち、「授業において特に意識・実践していること」に関する自由記述を分類するため、コード表を作成した(表8)。

表8 「授業において特に意識・実践していること」コード表

カテゴリー	含まれる内容の例
学習指導の工夫	授業展開の工夫 板書の工夫 発問内容の工夫 提示方法の工夫 問い返しや切り返し 教科感を出さない
動画や資料の活用	画像や動画を利用 関連する動画を見せる 実際の写真を使う
I C Tの活用	I C Tを活用
子どもを主体に	生徒が授業を進めていく 生徒主体で進める
考える活動の充実	葛藤させる じっくり考える時間の確保 広い視野で情報を集める
自分事にさせる	自分事に落とし込む 自分事としてとらえられるように
自分に向き合う	自分と向き合う時間 自分の心と向き合う時間
意見を広く交える	全員の意見の間く 意見を引き出す 自由に発言させる 発言を引き出しつなげる
意見への肯定的態度	どの意見も受け入れる 意見を否定しない
認め合い活動の充実	認め合う時間の確保 いいところ探し
体験的な表現活動	活動を取り入れる ロールプレイ 役割演技
他教科や日常との関連	行事との関連 タイムリーなもの 実生活に即した話
振り返り活動	振り返りの充実 振り返りを意識
教師も自分を語る	効果的な説話 教師自身の経験談 普段の自分を出す
授業での教師の構え	話し方 自身の発言に気を配る 教師も一緒に考える
教材研究の重視	題材の選定 教材研究に力を入れる
目的やねらいの意識	どのような価値を身に付けさせたいか 心を育てる ねらいをはっきりと意識 ねらいの設定
答え・正解がない	正解はない 答えがない教科 正解を限定しない 解答を求めない
価値観を押し付けない	価値観を押し付けないようにする 価値観に誘導しない
雰囲気づくり	発表しやすい雰囲気づくり 意見をしやすい雰囲気づくり
交流やローテーション	学年内で授業を交流 ローテーション道德
時数の確保	確実な実施
その他	

③ カテゴリー別回答数

学校段階別に「授業において特に意識・実践していること」に関する自由記述を「授業において特に意識・実践していること」コード（表 8）に従い分類した結果を図 10，図 11 に示した。なお，一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は，それぞれを分割して分類し，複数回カウントした。

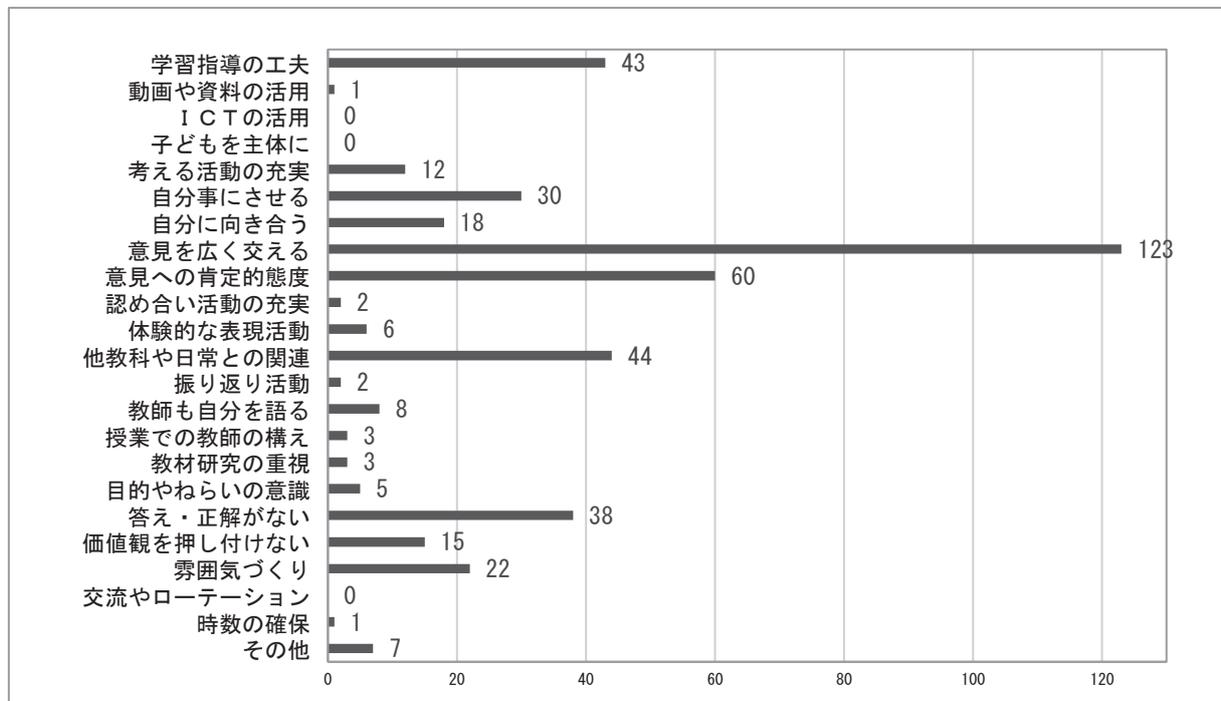


図 10 小学校教員の「授業において特に意識・実践していること」の自由記述を分類した結果（ $n=381$ ）

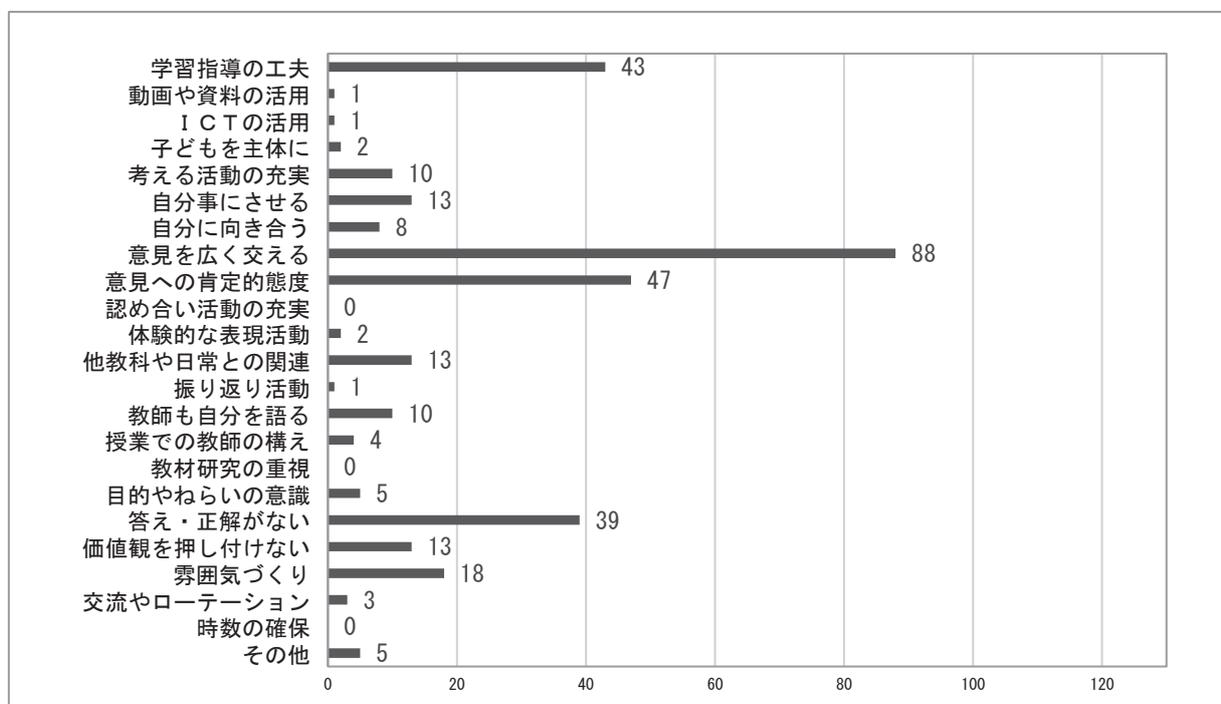


図 11 中学校教員の「授業において特に意識・実践していること」の自由記述を分類した結果（ $n=276$ ）

④ カテゴリー別回答例

学校段階別に、「授業において特に意識・実践していること」に関する自由記述を「授業において特に意識・実践していること」コード（表 8）に従い分類した回答例を表 9 に示した。

表 9 「授業において特に意識・実践していること」に関するコード別の回答例

	小学校	中学校
学習指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 範読のときに、BGMを流す。 ● 価値項目とのつながりを意識している。 ● 授業の流れや発問のタイミングには気をつけている。 ● ワークシートを使って掲示し、見返せるようにしている。 ● 構造的な板書。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 場面絵や発問などをパワーポイントで作成している。 ● 普通の授業以上にファシリテーター役に回ること。 ● 生徒が悩む発問を考える。 ● 主発問や生徒の発言への問い返し。 ● 教えすぎないようにしている。 ● 楽しめる。教科書にこだわらない。 ● 発問内容の工夫。 ● 板書計画。
動画や資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 出来ればその主題に関連する動画を使いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 画像や動画を必ず利用して、生徒が興味を持てるようにしている。 ● 地域の関係資料の用意や実際の写真を使った授業ができるようにしている。
ICTの活用		<ul style="list-style-type: none"> ● 話し合いやICT機器を活用している。
子どもを主体に		<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が授業を進めていくこと。 ● 生徒主体で進め、話し合い活動を必ず設けること。
考える活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 深く考え、悩む授業。 ● 充実した思考活動。 ● みんなで考える道徳。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒がじっくり考える時間の確保。 ● しっかり考えさせること。 ● どれだけ深く考えるか。

<p>自分事にさせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自分ならばという自分ごとでの考え方を意識させています。 ●最終的には「自分」に置き換えて考えられるように働きかけることを意識している。 ●自分事として考えられる授業工夫。 ●自分事として考えさせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒は教材を通して学ぶけれども、自分ごととしてとらえることができるかどうか授業の力点を置いている。これができれば、授業はほぼ成功だと思う。 ●価値観を自分事に落とし込んで考えさせること。 ●いかに自分事として捉えさせられるながれにできるか。
<p>自分に向き合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●他者の考えや感じ方と比べながら、自己の納得解が得られるような「見つめる」の時間を設けていること。 ●自分自身を振り返る時間を必ず設定すること。 ●自分に振り返る。 ●自分の弱い部分に気づけるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自身に向き合わせること。 ●生徒がどう感じるか、自分の心と向き合う時間にしたい、思考を動かしたい。
<p>意見を広く交える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●発言をつなぐこと。 ●発表という形態にとらわれず、つぶやきでの参加を多くする。 ●自分の考えをもつということについては他教科とははっきり区別して、全員が自己の学びや考えを表現できるように指導している。 ●子どもたち同士のコミュニケーションをとるようにする。 ●ペアでの話し合い活動を多く取り入れ、いろいろな考えがあることを知ることができるように意識しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●できる限り意見を吸い取る。 ●対話的な授業を実践すること。 ●できるだけ多くの意見を出させること、聞かせること。 ●とにかく自分の意見を持ち、言語化させることです。意見がないなら書きなさいと指導しています。 ●仲間の意見をつないだり、考えさせたりすること。
<p>意見への肯定的態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちの意見を受け止める。 ●子どもの意見を否定しないこと。 ●子どもの多様な考えを尊重すること、受容すること。 ●他教科よりも多様な意見に注目すること。 ●優劣をつけないこと。成績を付けないこと。どんな答えでも赤で○を付けること。 ●意見を否定することはしないでありのままを尊重する。 ●「そうなんだね。」とまずは声を掛けるように意識しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どの意見もいったん飲み込む。 ●どの意見も受け入れ、肯定する。 ●子どもの意見を否定しない。すべて受け入れる。 ●いつも以上に考え方の多様性があり、聞いている側の許容の姿勢を見せること。 ●「そういう意見もあるよね」と認めること。 ●生徒から出た意見、感想を否定することなく、すべてをまず、そう考えたんだね、と受け入れること。
<p>認め合い活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●お互いを認め合う時間の確保。 ●導入に子どもたちの良いところ探しをしています。一時間一人と決めて考える時間を設け、伝え合います。そうすると子どもたちはほかの友達は自分のことをこう思っているんだと自信がつき嬉しい、優しい表情になります。 	

<p>体験的な表現活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●低学年は、お話を読んでいるだけでは、内容項目について理解して考えることが難しい児童もいるので、劇遊びや動作化を行いながら内容項目に迫れるようにしています。 ●文章からだけでなく劇化して登場人物の思いに寄り添うようにする。 ●動作化したり、具体的なものを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動を取り入れて、退屈させないようにしている。
<p>他教科や日常との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●実生活と関連付けて振り返り。 ●現代社会での話題も絡ませる。 ●行事、教科などとの関連。 ●身近な話題や今教室で起きていることなどを反映するようにして、主体的に考えられるように心がけている。 ●日頃から望ましいと思われる価値観を伝えたり、ほめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●なるべく現在の生徒や学校の状況にあったもの、タイムリーなもの。 ●前段の教科書の内容だけでなく、日々の学校生活の様子に関連付けて考えさせること。 ●日常生活に落とし込めるものは落とし込んで考えさせる。 ●他教科に関連付けられるように意識している。
<p>振り返り活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返りの充実。 ●振り返りの時間を多く確保できるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業が終わった後の子どもたちの反応や振り返りを一番に意識しています。
<p>自分を語る教師も</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教師が普段感じていることを話す。 ●教師の実体験を話すこと。 ●自分の話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的な説話を準備すること。 ●教師自身の経験談を交えて説話をする。
<p>授業での教師の構え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大切なこと、価値があることを大事にする。 ●自分の生活を見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●言葉の発し方、偏った意見を広げないように気をつけている。 ●教員も一緒に考える姿勢を見せること。
<p>教材研究の重視</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもにとってより切実な問題を教材に据えること。 ●児童の実態に即した題材の選定。 ●教材研究に力を入れていること。 	
<p>目的やねらいの意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の心を育てること。 ●社会に出て生きていける力。 ●様々な価値観があることを認め、善し悪しの判断だけでなく様々な状況や環境の中で、よりよく生きるためのしなやかな判断力、人間性の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ●心を育てることを意識している。 ●ねらいの設定は、何度も考えます。 ●1コマの中で完結するように、ねらいをはっきりと意識している。

<p>答え・正解がない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 考え方に正解はないこと。 ● 間違いはないということ。 ● 分かった！という理解力ではないこと。 ● 答えを求めない。 ● 正解や自分の価値観に導くようにしないこと。 ● 何が正しいと言い切らないこと。 ● 正解は作らないが、よりよい方法や考え方を見つけていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 答えがない教科である。 ● 答えがないこと(人によって回答が違うこと)。 ● 他教科とちがいで、明確な答えはないということ。 ● 答えを与えない。 ● 正解や建前的な発言を求めないこと。 ● 答えを求める執着度が違う。 ● 答えが一つにならないこと、オープンエンドになること。 ● 答え(終末)が統一されないように言葉を選んでいる。
<p>価値観を押し付けない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教え込まない。 ● 建前論にならない。 ● こちらの価値観を押し付けない。 ● 教師の考えを押し付けないようにしている。 ● 子どもが本音で語り合えるよう、教師が考えを誘導しすぎないようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の価値観を押し付けない。 ● 教師自身の思想を植え付けないように考えている。 ● 教師の中に答えがあっても、それを押し付けたら誘導したりはしないように意識している。
<p>雰囲気づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自由な意見を歓迎する雰囲気。 ● お互いの意見を話し合い、聞き合える環境を作ること。 ● 真剣に考えて、自由に考えを交流できるような雰囲気づくり、授業展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思ったことを発表しやすい雰囲気づくり。 ● 自分の思いを答えやすい雰囲気を意識している。 ● できるだけ本音を言える雰囲気を作ること。
<p>ローテーション交流</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 学年内で授業を交流している。 ● 道徳の教材を学年で分担し、ローテーションを組んで実施しています。
<p>時数の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間 35 時間の確実な実施。 	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 即効性を期待しないこと。 ● 個によって、道徳的価値がもともと違うので、到達点が違ってよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 形にはめないこと。 ● 子どものいろいろな一面がみられる。

小学校、中学校ともに「意見を広く交える」という回答が最も多く、次いで「意見への肯定的態度」「答え・正解がない」という回答が多くみられた。このことから、道徳の授業では児童・生徒同士の意見交流を行い、たくさんの考えに触れてもらうことを特に意識していることが考察できる。また「答え・正解がない」という回答について、これは道徳には明確な答えがないこと、「考え、議論する道徳」の授業づくりが進んでいることが影響していると考えられる。

B 道徳授業についての様子や，工夫していること

(B-1) 道徳授業の様子

図 12，図 13 では，調査協力者の「道徳授業の様子」に関して，学校段階別に，小学校段階および中学校段階の割合を示した。

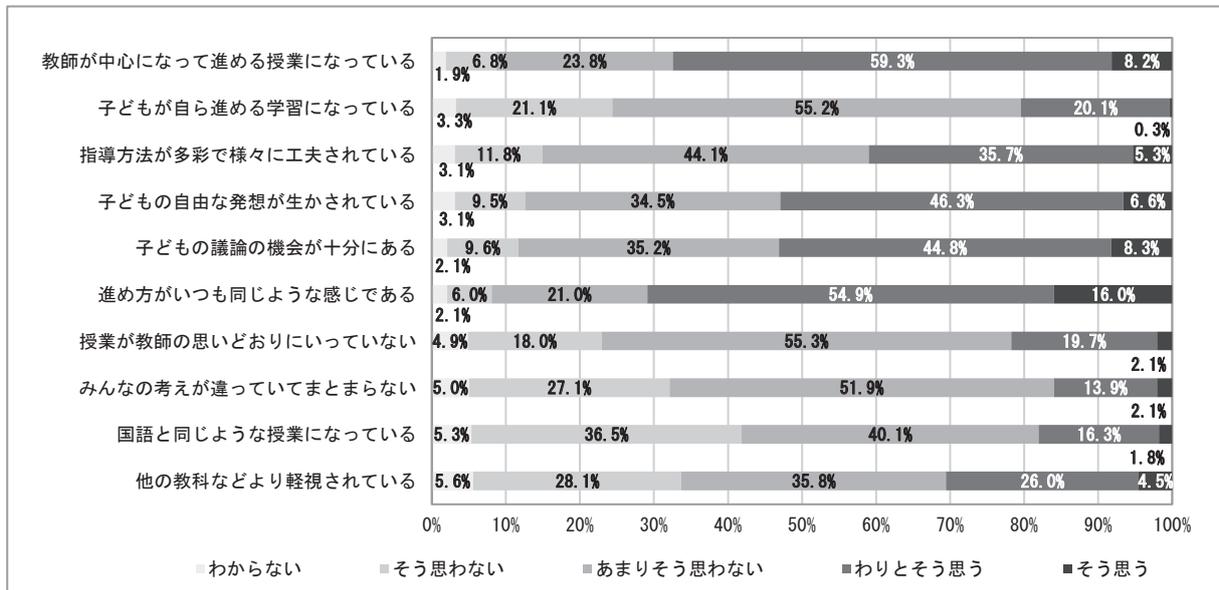


図 12 道徳授業の様子：小学校 (n=676)

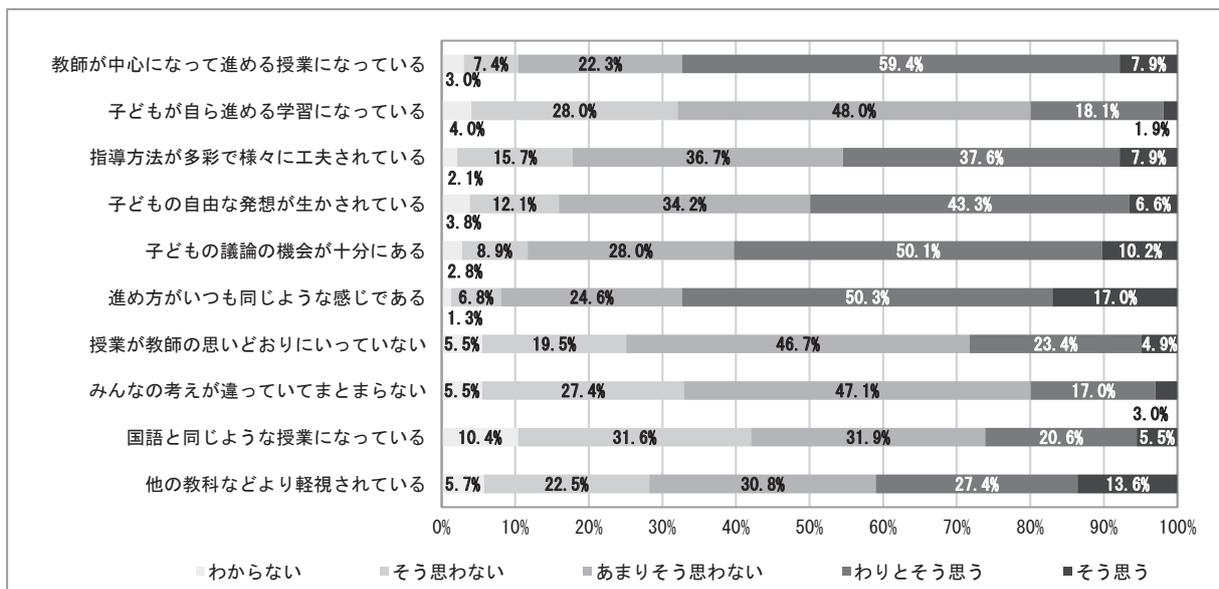


図 13 道徳授業の様子：中学校 (n=471)

小・中学校ともに，「教師が中心になって進める授業になっている」に対して肯定的な回答が多くみられた一方，「子どもが自ら進める学習になっている」では肯定的回答が大きく減少しており，今の道徳授業は基本的に教師主導で行われている傾向がうかがえる。ただし，子どもの自由な発想や議論を重視し，「考え，議論する」といった道徳科で求められる授業の姿を日常の授業に積極的に取り入れようとする教員の工夫もみられる。一方で，「進め方がいつも同じような感じである」と強く感じる教員も小・中ともに多く，道徳授業の形式化・形骸化といった課題が，なお一定程度残されている可能性が示される。

(B-2) 授業で取り入れている工夫

図 14, 図 15 では, 令和 6 年度時点で学級担任をしている調査協力者に対して「道徳授業で取り入れている工夫」に関して, 学校段階別に, 小学校段階および中学校段階の割合を示した。

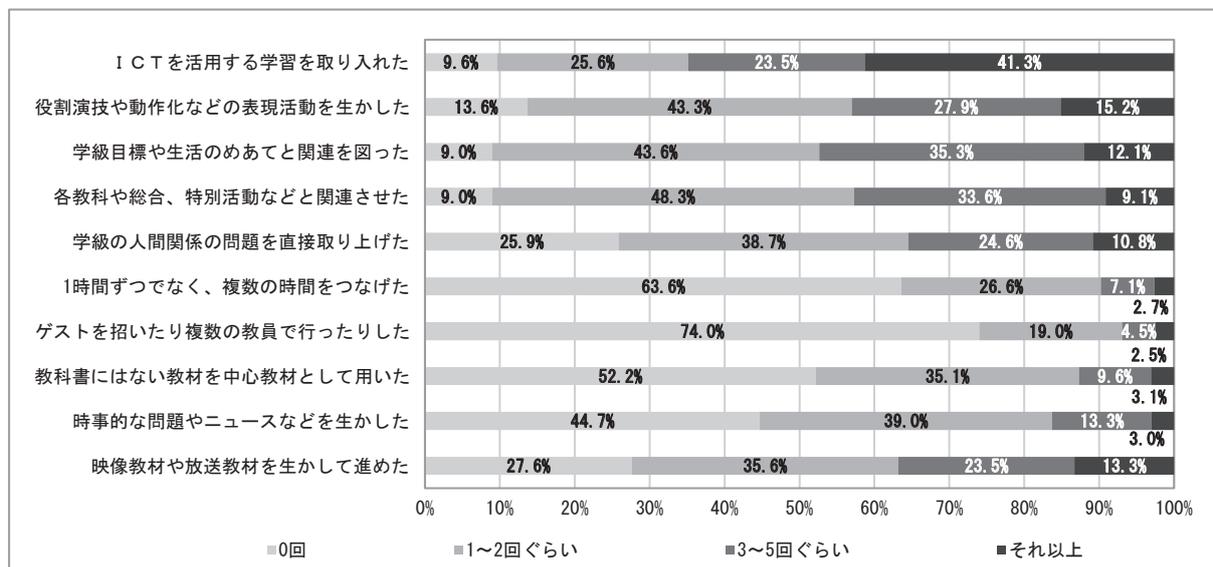


図 14 道徳授業で取り入れている工夫：小学校 (n=646)

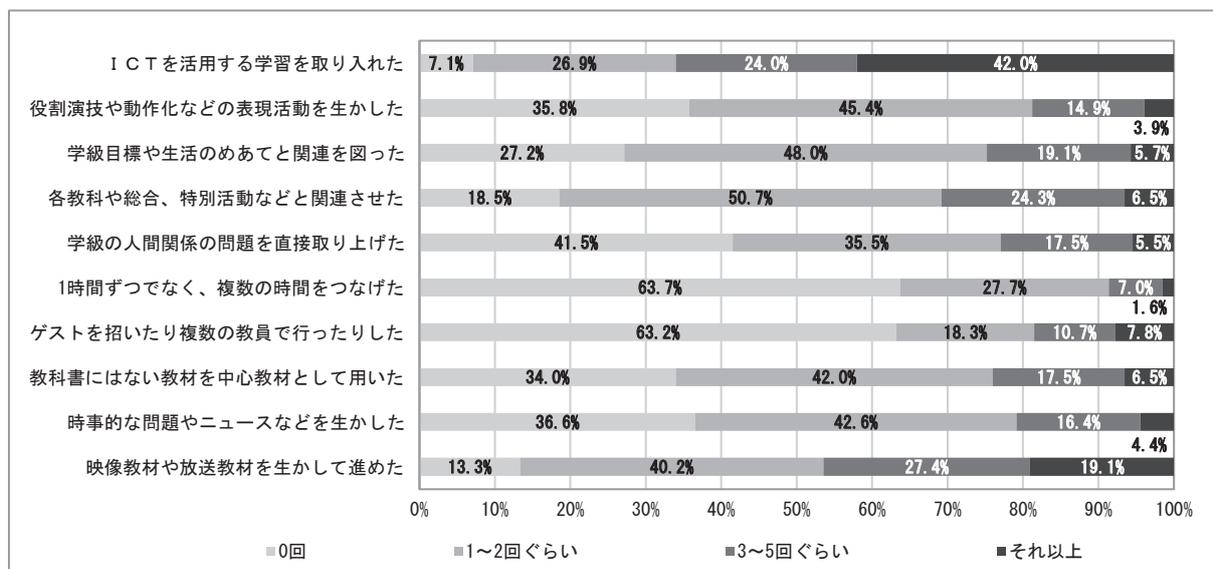


図 15 道徳授業で取り入れている工夫：中学校 (n=383)

小学校の教員は, 役割演技や特別活動と関連した取組を比較的多く取り入れている傾向がみられる。小学校は担任制であり, 学級指導や生活指導を日常的に行う立場にあることから, 道徳の授業を他教科や日常の指導と関連づけて展開しやすい環境にあると考えられる。一方, 中学校では, I C T や映像資料の活用が際立つ一方で, それ以外の指導方法については, 特定の方法に偏ることなく, おおむね同程度に用いられている。また, 小学校と比べると, ゲストティーチャーを招く取組や, 複数の教員によるローテーション授業, さらに映像資料をはじめとする多様な教材の活用が進んでおり, 人の関わり方や教材の選択において, よりバリエーションのある授業展開が行われていることが示唆される。

(B-3) 効果・手応えがあったと感じた教材・授業

(B-3-1) 効果・手応えがあったと感じた授業で用いた中心教材

表 10, 表 11 では, 学校段階別に, 効果・手応えがあったと感じた授業で用いた中心教材を, 教材名を多いものから順に示した。回答数が 2 以上のものを示している。また, 同じ資料でも異なるタイトルが使用されている場合には, 別々に表記している。

表 10 効果・手応えがあったと感じた授業で用いた中心教材の頻度一覧: 小学校

13	手品師		
6	ロレンゾの友達		
5	はしのうえのおおかみ		
4	四本の木		
3	かぼちゃのつる	黄色いベンチ	くりのみ
2	いいだせなくて 絵はがきと切手 おおひとやま お母さんのせいきゅう書	およげないりすさん 銀のしょく台 修学旅行の夜 助かった命	誕生日 ブランコ乗りとピエロ ぼくのボールだ

表 11 効果・手応えがあったと感じた授業で用いた中心教材の頻度一覧: 中学校

9	二通の手紙		
3	風に立つライオン	みんなでとんだ	
2	あふれる愛 宇宙人 裏庭での出来事 エリカー奇跡の命—	カーテンの向こう 銀色のシャープペンシル ソーセージの悲しい最後 注文を間違える料理店	包む トマトとメロン バスと赤ちゃん ひまわり

(B-3-2) 効果・手応えがあったと感じた授業の工夫等

分析に先立ち、「効果・手応えがあった工夫等」に関する自由記述を分類するためのコードを作成した(表12)。

表12 「効果・手応えがあった工夫等」に関する自由記述分類のコード表

カテゴリー	下位カテゴリー	含まれる内容の例
授業展開や指導方法の工夫	授業展開を工夫する	生徒に授業を考えさせる 生徒が進行していく授業
	導入を工夫する	導入で興味を引き付ける
	提示方法を工夫する	ペーパーサートを活用する 挿絵を部分提示する 再現構成法
	発問を工夫する	中心発問の工夫 補助発問 具体的な発問の例
	意見を交流する	意見交流 意見交換 グループワーク
	相互交流・認め合い活動を行う	友達の良いところを書く 友だちに自分の良いところを書いてもらう
	議論をする	議論 立場討論 ディベート
	切り返しや問い返しを工夫する	発言に対する問い返し 切り返し発問
	考える活動を充実させる	いろいろな立場から考えさせる 登場人物の視点で考えさせる
	実際に体験させる	役割演技 実演 疑似体験
	自分のこととして考えさせる	自分の実体験との比較 自分だったらと考える
	板書を工夫する	構造的な板書 板書の仕方
教材の活用や工夫	経験やエピソードを共有する	教師の知り合いの話をする 教師の体験談
	教材選択を工夫する	興味がある内容にする 親しみやすい題材にする モラルジレンマ
	資料を活用する	ニュースを紹介する 新聞記事を紹介する 歌を活用する 画像や写真を用いる 補足説明をする
	動画を視聴する	関連動画の視聴 ドキュメント映像
補助器具等の活用	ICTを活用する	ICTを用いる 考え方をICTで共有 電子黒板
	意見や心情を可視化する	心のグラフ 心の分布図 心の数直線 ハート図 色や絵であらわす 立場をマグネットなどで示す
	アンケートを行う	事前アンケート アンケートの実施
関連・連携や体制	他教科や日常生活と関連させる	行事と関連させる 他教科と関連付ける 学校で起きた問題と関連させる 実生活を想起させる 帰りの会で感想を紹介する 学んだことを掲示する
	複数時間で行う	複数時間扱い
	全校体制での道徳授業を行う	学年での道徳 学年を超えて議論 複数学年で合同で行う
	多様な講師を活用する	ゲストティーチャー
	保護者を巻き込んで授業する	道徳通信の発行 授業参観 保護者に公開 親へのインタビュー
	学級を充実させる	何でも話せる学級経営
教師同士で協働する	学年団で教材の検討	
その他	その他	

① カテゴリー別回答数

学校段階別に「効果・手応えがあった工夫等」に関する自由記述をコード（表 15）に従い分類した結果を図 16、図 17 に示した。なお、一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は、それぞれを分割して分類し、複数回カウントした。

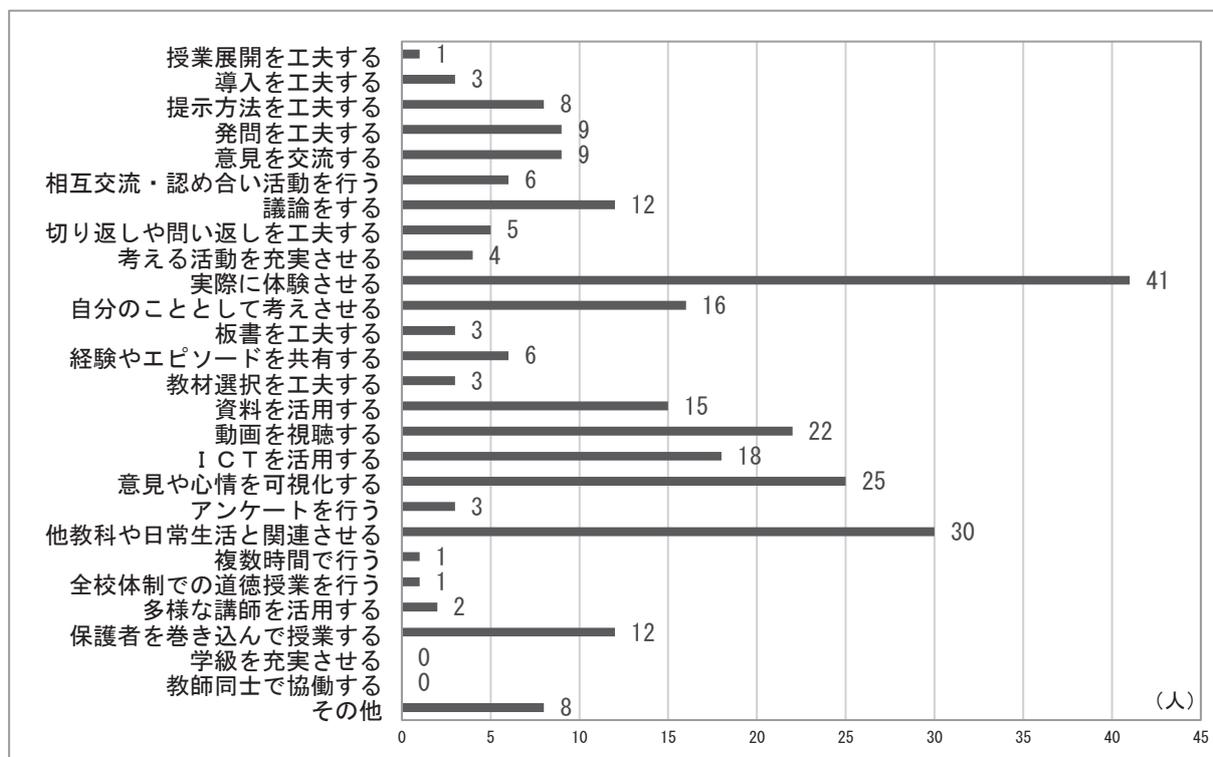


図 16 小学校教員の「効果・手応えがあった工夫等」の自由記述を分類した結果（ $n=237$ ）

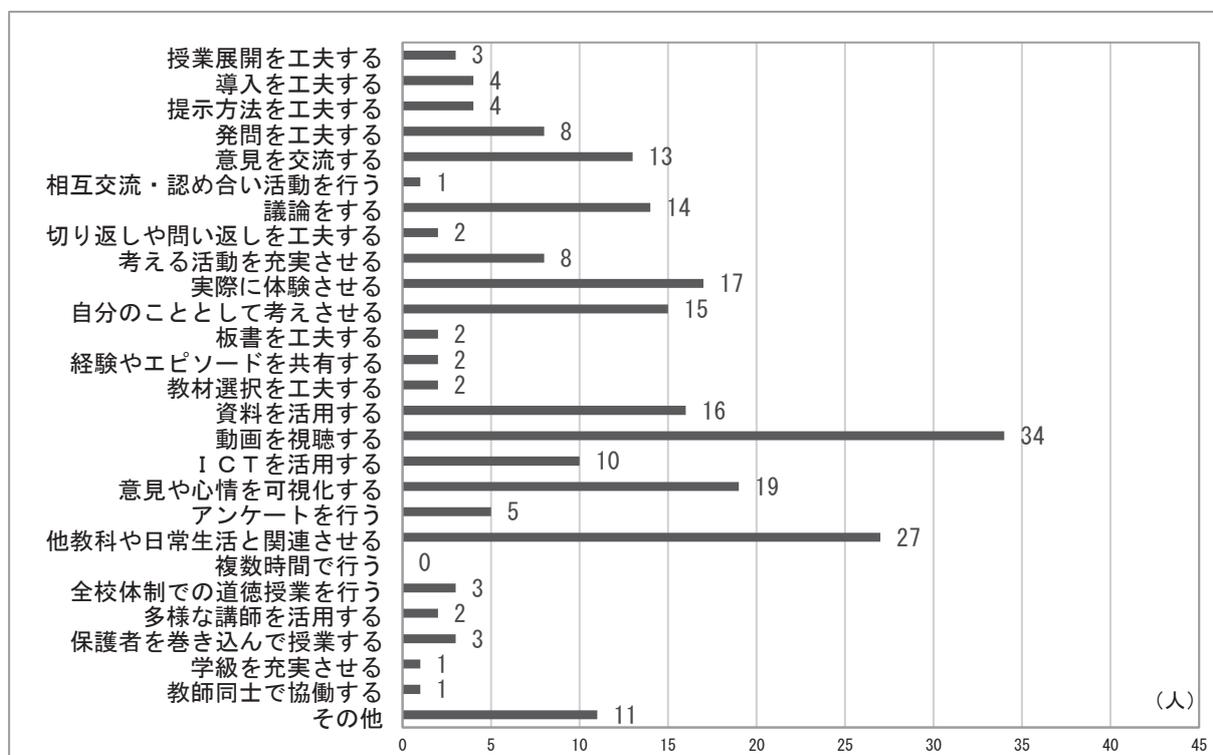


図 17 中学校教員の「効果・手応えがあった工夫等」の自由記述を分類した結果（ $n=194$ ）

② カテゴリー別回答例

学校段階別に、「効果・手応えがあった工夫等」に関する自由記述をコード（表 12）に従い分類した回答例を表 13 に示した。

表 13 「効果・手応えがあった工夫等」に関するコード別の回答例

		小学校	中学校
授業展開や指導方法の工夫	授業展開を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ●グループで一つの発問について考えさせ、一つの答えを出させた取り組みは、子ども同士が積極的に話し合い、とても効果がある取り組みとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の問いを板書で書き出し、扱っている価値に迫っていると生徒が判断する問いをグループないし全体で選び、それについて考えを深めた。 ●生徒が前に立ち、生徒が進行していく授業で、代表生徒の疑問点を中心発問にして授業展開できた。
	導入を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ●最初にどんな子かを考える。 ●最初にあなたが思う悪い人の顔をかかせ、教材に入ることで悪い人は見た目が怖い人だけでなく、優しそうに見えても悪い人かもしれないという思いを持つことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●導入を工夫する。 ●導入で引き付ける。 ●導入でテーマが思いやりということを明確に伝えた。
	提示方法を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ●挿絵の部分提示により、挿絵の表情からも心情を考えようとしていたと思う。 ●登場人物がたくさん出てきたので、スライドであらすじを説明して、考える時間をとることができた。 ●SNSのやり取りの様子を、少しずつ提示することで実際にやり取りしている人物が受ける印象や気持ちを考えられるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●再現構成法。 ●場面提示の行い方。 ●敢えて教科書を使わず、教科書を区切って印刷した。
	発問を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ●心を揺さぶる発問をする。 ●教材を正しく読み、問いを立てること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●たくさんの意見が出やすいめあてを立てて、授業の軸を作る。 ●導入の発問と終末の発問を同じ発問にし、1時間で学んだことや考えの変化が実感できるようにした。
	交流する 意見を	<ul style="list-style-type: none"> ●語りと児童の意見による授業。 ●互いの立場で考えを伝え合い、多様な考えに触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●少人数で意見交流。 ●生徒の意見交換をたくさんする。 ●個人で考える、ほかの生徒と考えを共有するなど、生徒の考えの多分に触れる機会を設ける。
	認め合い 相互交流・ 活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の良いところ、友だちの良いところを一人ずつ、全員に付箋に書く。 ●友達の良いところを書いてもらい、誰のことを書いたのかをクイズ形式で当てる。 	

授業展開や指導方法の工夫	議論をする	<ul style="list-style-type: none"> ● 立場を分けてディスカッションする。 ● 付箋を出し合いながら、考え、議論させることができた。 ● 賛成派と反対派、どちらかわからない派の3つのグループに分けてそれぞれの意見を言い合わせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループでの話し合いを中心に行っている。 ● 二つの選択肢を設けて議論を展開する。 ● 違いが明確にわかるように視覚化して討論させた。
	問い返しを工夫する 切り返しや	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童のつぶやきを授業で取り入れたこと。 ● 児童が発言した時、「〇〇さんの考え、『わかるな』と思う人」と切り返して挙手を促した。あまり発言しない児童が参加の意思表示が示せるとともに、発言した児童も受容してもらえた実感を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心発問以降の問い返しや補助発問で深めていく。 ● 発言に関する問い返し。
	考える活動を 充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな立場から一つの物事について考えさせることは、効果があったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの面から考えさせたこと。 ● 登場人物が多かったため一人一人の視点に立って気持ちを考えさせることで自分の周りにも様々な意見を持っている人がいることを感じる。
	実際に体験させる	<ul style="list-style-type: none"> ● ロールプレイを用いて考える。 ● 実際に動き回る。 ● 導入で吹雪の音を聞かせた、紙粘土で栗の実を作成し動作化の際に用いた。 ● 登場人物になりきるお面や、栗のペーパークラフトを準備し、動作化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 妊婦の疑似体験。 ● のり付けの実演をした。 ● 実際に風呂敷で包んだものを手渡す活動を取り入れた。 ● 母親が入院してしまったときの家族会議をロールプレイングで行い、途中で様々なハプニングカードを引いてもらいその対応を考える。
	自分のこととして 考えさせる	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分事として考えさせる。 ● 自分の今までの考えとお話の登場人物の考えを比べること。 ● 教材を通して、自分の日頃の行動を各自振り返ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分に重ねて考えさせることが手応えがありました。 ● 生徒の経験に照らして、自分に引き付けて考えられるようにする。 ● 話を読む前に想像させ、自分ならこんな時どうするか考えさせた。
	板書を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造的な板書。 ● 主人公 2 人の心情の変化を時間軸を整理しながら対応できるように板書を工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 板書の仕方。

教材の活用や工夫	経験やエピソードを共有する	<ul style="list-style-type: none"> ● 実話。 ● 自分の経験談を話す。 ● 実際の事件や教師のネット上の友人などリアルな話に食いついていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 当時関東に住んでいたのが体験談として話げできた。 ● 「教えるという仕事」として、導入で教え子からもらった手紙を使用した。
	教材選択を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが親しみやすい絵本を題材にしたことで、普通の授業よりも子どもたちが食いついていた気がする。 ● 多様な考え方を認めるということで異学年がいる特別支援級はモラルジレンマ教材はある意味最適です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に興味がある内容にする。 ● 「思いやり」がテーマになった教材で内容が生徒にも考えやすかったのが、意欲的に取り組んでいたように思います。
	資料を活用する	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真や絵の活用。 ● 教科書以外の資料を使う。 ● 実際にあった社会問題の新聞記事を取り上げて扱ったところ、より自分事として、議論できていたように感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 画像を使う。 ● 骨髄移植について、写真や画像を用いて生徒にイメージさせたこと。 ● ニュースで時事問題を紹介する。 ● 普段子どもたちだけではなかなか触れられない資料、映像。 ● 教科書に載っている以外の漫画を新聞からもってくる。 ● 歌詞に沿って授業を行い、自分の人生の価値について話し合った。
	動画を視聴する	<ul style="list-style-type: none"> ● 動画でお話をみせたこと。 ● 実際の映像や写真を見せた。 ● 映像教材を使い、教材の内容以外にも当時の時代背景などからめて学習しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際の動画を流す。 ● 映像を効果的に用いる。 ● 動画を見せて実際の実態を伝えることができた。 ● 生徒が知っているスポーツ選手の人生ドラマなどを映像や資料等を用いて授業をした。

補助器具等の活用	ICTを活用する	<ul style="list-style-type: none"> ●電子黒板での拡大挿絵。 ●ICTを活用した綱引きチャート。 ●多数と意見を交流するためにICTを活用した。 ●思考ツールを使って考えた。違う立場への理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTを用いた導入。 ●考えをICT共有。 ●ICTを活用した、全員の意見の見える化。
	意見や心情を可視化する	<ul style="list-style-type: none"> ●登場人物の心情曲線を書く。 ●気持ちを色や絵で表して変化を感じた。 ●ネームプレートを使って、子どもの意見を可視化させた。 ●心情メーターを用いて心の葛藤を表す活動をしたこと。 ●自分の考えを色付きの紙コップで表現させ、考えが変化したらその都度色を変えて表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●心のグラフ。 ●数直線やグルーピングをする。 ●心の数直線を用いて、葛藤の度合いを視覚化した。 ●場面ごとに気持ちの変化をハート図に書かせ、変化を見た。
	アンケートを行う	<ul style="list-style-type: none"> ●継続できている事と、できていない事についての事前アンケートと、できていない理由について想起させたこと。 ●アンケートを事前に実施しておき、今の自分を振り返る際に活用することで、自分事として内容をとらえさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業前アンケートの導入と終末の活用 ●スマホ依存症の簡単なアンケートを授業冒頭の導入でやったことで子どもたちの食いつきがあった。
関連・連携や体制	他教科や日常生活と関連させる	<ul style="list-style-type: none"> ●他教科とのリンク。 ●周年行事との関連させた授業内容。 ●子どもの経験をたくさん話させた。 ●クラスの実態に置き換えた事。 ●実際に起きたことを取り上げることが一番効果的だと考えます。 ●学んだことを短くまとめて、宝箱にし、教室に掲示した。 ●自分のもち味(いいもの、苦手なことも含む)を同じワークシートで定期的・継続的に行うことで自分を見つめ直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会科(公民科)とも関連付け、社会情勢という面から内容にせまった。 ●部活動での問題を出させて取り上げた。 ●実際の経験やトラブルに基づく話。 ●それぞれの学校行事に合わせ、モチベーションを上げたり、課題を見つめさせるような授業になるように工夫しました。 ●帰りの会で授業の感想を紹介したことによって、考えが深まっていたように感じました。
	複数時間で	<ul style="list-style-type: none"> ●2時間扱いにし、①内容理解②それぞれの立場になって議論。②の時間を十分に確保することで、より深い話し合いができた。 	
	全校体制での道徳授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> ●複数学年で合同で行うことで、多様な意見を交換し、新しい考えを学ぶ姿が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学年での道徳を行いました。 ●インターネット上で画像をやり取りするときの様々な場面について、学年を超えて議論したこと。

関連・連携や体制	多様な講師を活用する	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲストティーチャーによる話。 ● 地域の方にゲストティーチャーになっていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本物のミュージシャンを招いて、自分の好きなことについて話をしていただいた。
	保護者を巻き込んで授業する	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業参観で保護者を巻き込んだ。 ● 授業参観で行い、感謝の手紙を書き、お返事もらった。 ● 保護者に公開することで家庭でも話題にしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業参観で行った。 ● 授業後に、道德通信を発行したり、保護者向けのお便りを発行したりしたことで、生徒はほかの人の考えをさらに深く知ることができた。
	充実させる学級を		<ul style="list-style-type: none"> ● 何でも話せる学級経営。
	協働する教師同士で		<ul style="list-style-type: none"> ● 学年団で教材の検討。
その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材文がよかった。 ● 日々の積み重ねで効果を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 訴える力が強い事実は、シンプルに扱うことで深く考えさせることができる。 ● 感情だけでなく理論を基に判決を決めること。 ● 動画の中に答えがあるクイズを作成し、出題した。

「効果的であった工夫等」に関する意見をカテゴリー別に分類した結果、小学校では、「実際に体験させる」という回答が最も多く、次いで「他教科や日常生活と関連させる」、「意見や心情を可視化する」の回答が多かった。「実際に体験させる」、「他教科や日常生活と関連させる」という回答が多いことについて、登場人物になりきったり、実際の生活と重ね合わせたりすることなどにより、内容が想像しやすくなるためであると考えられる。中学校では、「動画を視聴する」が最も多く、次いで「他教科や日常生活と関連させる」が多かった。映像を用いたり、日常や他教科と関連させたりすることによって教材の内容の理解を深めることや、授業への興味を持たせることが可能であるからであると考えられる。また、学校種別で回答を比較すると、「実際に体験させる」の回答に大きな差があることが分かった。特に、役割演技など登場人物になりきって演技するような活動は、中学校ではあまりみられなかった。

(B-4) 自分に生かしたい授業の工夫

分析に先立ち、「生かしたい工夫等」に関する自由記述を分類するためのコードを作成した(表14)。

表14 「生かしたい工夫等」に関する自由記述分類のコード表

カテゴリー	下位カテゴリー	含まれる内容の例
教材を工夫する	身近なもの	絵本 音楽 地域の題材 身近な題材 時事的なこと 過去の出来事
	映像や写真	映像 動画 写真
	題材の工夫	教科書以外の教材 異なる校種の教材 モラルジレンマ 賛成や反対が出るような教材 実在する人物のエピソード
	補助教材, 教具の工夫	手紙 人形劇 カード メッセージカード ペープサート オリジナルワークシート
ICTを活用する		プロジェクター タブレット テキストマイニング
考えを 可視化する		シール マグネット ノートを掲げる 色を用いる 思考ツール 心情チャート こころのものさし 心の数直線
発問を工夫する	発問内容の工夫	中心発問 補助発問 追求発問 的確な発問
	揺さぶり	心を揺さぶる発問 揺さぶる
	問い返し	問い返しを多くする 繰り返す
子どもの意見を 生かす		発言を拾う・切り返す・引き出す 子どもの発言を受けて授業を展開する
子どもに授業を 進行させる		子どもが主体的に進める 子どもたちで議論を進める 子どもが話したいことを決める
意見がつながる/ 意見をつなげる		子ども同士で意見・発表がにつながる 教師が子どもの意見をつなぐ
教師の関わりを 工夫する		ファシリテーター 教師もともに考える 肯定的な声かけ 子どもとのやり取りの中で解釈のズレを見つける
意見交流・議論の 時間を作る	意見交流	共感 対話 認め合い 視野が広がる
	話し合い	話し合う 話し合いの中で葛藤する 話し合いを通して道徳的価値への理解を深める
	議論	討論 立場を明確にしての議論
発表の機会を 広げる	積極的な発言の 促進	生き生きと発言する 意見や考えが活発に出る
	全員が参加できる ような工夫	全員が発表する 全員が意思表示できるような工夫
表現活動を生かす		役割演技 ロールプレイ 動きの再現
体験と 関連付ける		実話 日常生活との関連 学校生活との関連 過去とのつながり
板書を工夫する		板書の構造化 授業の流れが分かりやすい 考えの変化が分かりやすい
教師が語る		説話 導入の語りを工夫 教師自身の経験を語る 以前の職を活かす
本音や真剣さを 引き出す		自分語り 本音で話す 涙する 真剣に考える

雰囲気づくりをする		意見を言いやすい雰囲気 みんなで考えようとする雰囲気
多様な講師を活用する		ゲストティーチャー
実施形態を工夫する		公開授業 合同授業 学年で共通の課題を用いる 保護者や地域の方を招く
研修を充実する		示範授業 文科省の授業動画 教師同士の学び合い
具体的な教材名が含まれるもの		
具体的な実践者名が挙げられているもの		
区分が難しいもの		自分事として考えさせる 視点を変えて考えさせる 道徳開き 教員の立ち位置の工夫 考える時間の確保

① カテゴリー別回答数

学校段階別に「生かしたい工夫等」に関する自由記述をコード（表 27）に従い分類した結果を図 18, 図 19 に示した。なお、一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は、それぞれを分割して分類し、複数回カウントした。

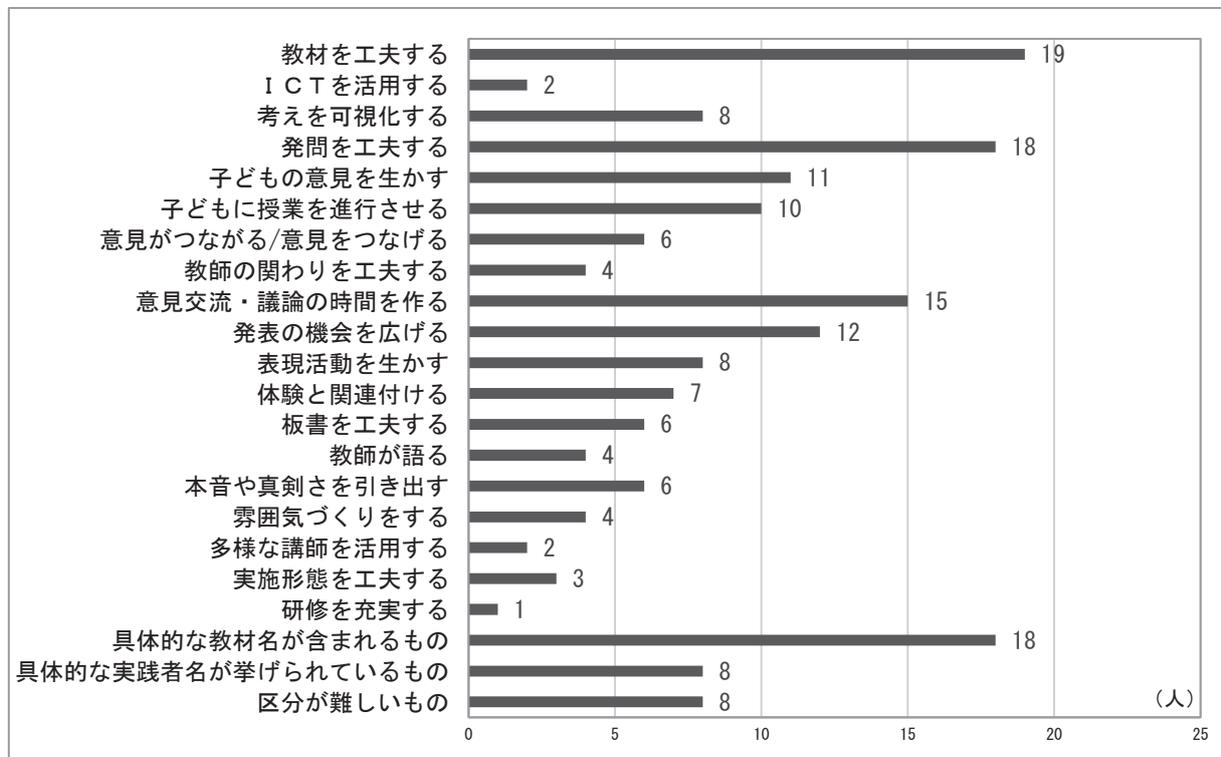


図 18 小学校教員の「生かしたい工夫等」の自由記述を分類した結果（ $n=154$ ）

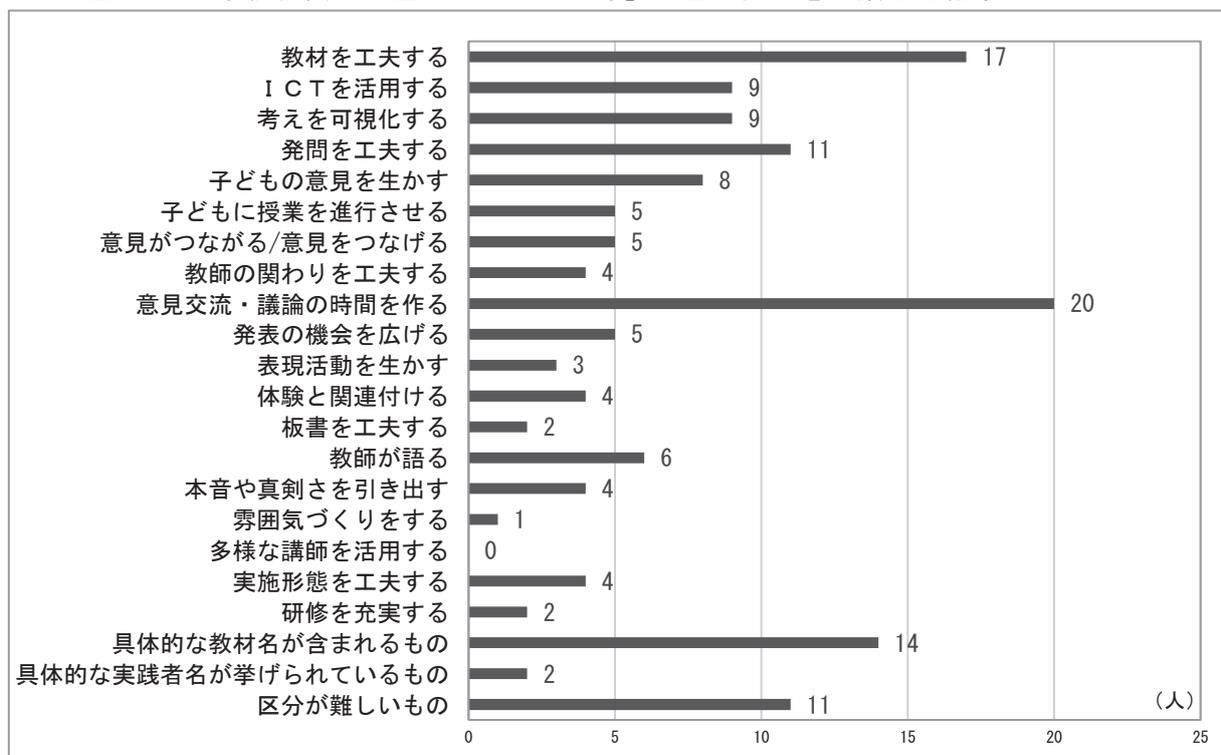


図 19 中学校教員の「生かしたい工夫等」の自由記述を分類した結果（ $n=120$ ）

②カテゴリー別回答例

学校段階別に、「生かしたい工夫等」に関する自由記述をコード（表 14）に従い分類した回答例を表 15 に示した。

表 15 「生かしたい工夫等」に関するコード別の回答例

		小学校	中学校
教材を工夫する	身近なもの	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が小学生の時に書いた作文。 ●BGMを取り入れて世界観を作る授業。 ●絵本を用いた授業。絵本のおもしろい話からテーマに沿っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽や映像を効果的に用いていた。 ●実物等を交えながら思考がより深まる。
	映像や写真	<ul style="list-style-type: none"> ●映像があったり、実際の資料があったりしてよかった。 ●説話に動画を用いていたこと。教材を用いた学びからリアルの世界でその時間に学んだ価値をどう活かすかという視点に持ってきていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料の写真にも注目させて、そこから想像することや考えることを通して、生徒に興味をもたせる。 ●C16で地元のまつりの様子を映像で紹介していた。テーマについて生徒が自分事として考えることができていた。
	題材の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●二つの道徳的価値が対立するような教材を活かした授業。 ●中学生の授業で、小学1年生の道徳の題材を用いて行っていたもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ●思いやりについて考える授業で、実際の経験を基に教材を作成していた方の授業が印象に残りました。 ●プロとして仕事をしている人の、その道のプロになるまでのエピソードを学んだこと。 ●15歳から臓器提供の意思決定権があると知り、まさに中3が自分ごととして考えざるを得ない題材で、自分なら、家族ならと葛藤しながらとても真剣に考えている姿が見られる授業だった。
	補助教材、教具の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●パペットを使いながら人形劇を見るように道徳の授業を進めるやり方。 ●自分のよさについて考える内容の授業で、保護者や上級生、担任などいろいろな立場の人から子どもあてのメッセージカードを準備して活用していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●場面把握のためにペープサートを使っていた。 ●グループ活動で、教師作成のオリジナルワークシートをもとに話し合いをしていた。
活用するICT		<ul style="list-style-type: none"> ●心の数直線、テキストマイニングを用いて、自分の立場を明らかにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTを活用し、生徒の意見がすぐに視覚化される授業。 ●タブレットを活用して、意見を比べたり、図を比較したりするやり方はとても良かった。

考えを可視化する		<ul style="list-style-type: none"> ● 思考ツールを使って(三角形)最後のまとめを自分で導き出すやり方。 ● ハートを赤青で色分けして意見交換した授業。 ● 0-100 で自分の気持ちがどこにあるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各個人の思いを教室に掲示したこと。 ● 黒板に教材の写し掲示し、自分が特に気になった部分にシールを張らせて共有していた。 ● 自分の名前マグネットを貼って考えを共有するなど、一人一人の考えが見える化され、大切にされている様子が勉強になった。 ● 人の意見に賛同したら、ノートを掲げて「賛成！」とアピールするスタイルをやっている先生の授業。
発問を工夫する	発問内容の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心発問だけでなく追求発問がある。 ● 想像しやすい仕様の提示の仕方や補助発問など効果的な授業をみて、自分だったら？と想像することができる授業が良いと感じた。 ● 感動、畏敬の念を取り扱う難しい教材だったにもかかわらず、発問が適切だったり、補助発問が充実していたので、児童の思考やつぶやき、発言が止まらなかった授業が印象的でした。 ● 嘘や汚い言葉など、単にやってはいけないで終わらせるのではなく、言ってしまう気持ちやできていない時の自分のことを思い出してさらに考えを深められる発問をしていたところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心発問のみで全員が発表する。 ● 主発問に迫る補助発問の提示の仕方。 ● 生徒の発言を活用して、そこから新たな発問を生み出して生徒に投げかけ、授業を進めていく。 ● 生徒に「本当に？」と考えをもう一度振り返らせる発問。「親友とは？」に対して「本音で話せる相手」と答えさせ、その後に教材を読み、「本音を言い合えずで人間関係が壊れた場面」があり、そこでもう一度考えさせる。そのような展開は上手だなあとと思います。
	揺さぶり	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が揺さぶる発問をして、児童の見方考え方を広げ深めていたこと。 ● 子どもを揺さぶる発問をすることで、子どもが新たな気づきをすることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループに分けて揺さぶりをかける授業。
	問い返し	<ul style="list-style-type: none"> ● 問い返しが多く、この課題を考えたいと思えるような内容。 ● 教師の発問、問い返しで子どもたちが自然に、深く考えていく授業がとてよかった。 ● 児童の発言に対して問い返すことで、児童の思考がどんどん深まった授業。問い返しも一つの授業で20個ほど準備が必要と聞きました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が中心となり、意見交換をして考えを深めたり、教師の問い返しによって考えが深まっている授業。

<p>子どもの意見を生かす</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の意見から、補助発問を作る。 ● 児童の言葉を拾って展開を広げていく授業（子どもたちの発言がきっかけで展開が変わる授業）。 ● 児童の発言を引き出し、児童の言葉で進行していく授業。 ● 教師が、子どもの意見からキーワードを見つけ、そこを追求していく授業。 ● どんな心が大切か、子どもたちの言葉で複数出してまとめられた授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の意見(つぶやき)を拾い、全体に還元した教員の指導。 ● 子どもがどんなことをいうのかしっかり予想ができ、コントロールしながら、意見を引き出す授業。 ● 生徒の多様な意見を引き出しながら、その意見を繋げたり広げたりしてさらに価値の高い方へと自然と導き深めている授業。 ● 話し合いの中でどんどん考え方が深まっていくのがわかり、そのまま終わると思っていた内容が、生徒のある発言を拾って教師が漏らした一言で、全員の発言がなくなり、明らかに「さらに思考した」状態になった授業。
<p>子どもに授業を進行させる</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが主体的に進めていた授業。 ● 子どもたちの話し合いで授業が進んでいく授業。 ● 子どもたちだけの議論で、授業が進められていた所。 ● 問い返しを教師が多くし、子どもたち同士で授業を展開していく授業でした。 ● 子どもの側から題材について、「こんなことを話し合いたい」と提案し、学習が始まる授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員が完全にファシリテーターになっており、生徒の意見で授業が進んでいた。 ● 子どもたちの意見だけで繋がれ、授業が構成されていた。
<p>意見がつながる／意見をつなげる</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが意見を繋いで発表しているところ。児童主体で授業がどんどん進んでいた。 ● 5年生の授業で、教師が指名しなくても子ども同士で発表が繋がっていた授業が心に残っています。発表者に体を向けて話を聞いていて、一つの意見に対してみんなの反応があり、素直な意見がたくさん出ていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が話さず、子どもたちの意見が繋がっていく話し合い。 ● 研修で拝見した、生徒の発言を横につなげていくという授業スタイルは、意見も活発になり、生徒主体で授業が進みやすかったので、非常に印象に残っています。
<p>教師の関わりを工夫する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 解釈のずれを見つけ、子どもが考えを再構築できる授業。 ● 教師もその集団の一員となって、共に考えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 机間指導で、生徒が書いた文章に線を引しながら、ひとりひとりに肯定的な声掛けをする授業。 ● (関心を)持っているが積極的に発言しない生徒を上手に捉えて引き出し、盛り上げていった授業。

意見交流・議論の時間を作る	意見交流	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども同士が自己を振り返りながら表現する姿。 ●意見が分かれて、それぞれの思いを伝え合い、自分とは違った考え方があることに気づく授業。 ●学校行事と関連付けて行事の前後で自分や友達の良い表われやよい変化を話し合い、よさを認め合っていた。 ●振り返りの時間を十分に確保し、振り返りしたことをクラスで共有・共感をし、認め合う授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ●エンカウンター的な内容で、他者から自分のことを気づかされる内容となっていた授業。 ●研究大会等の参観にて、p4cによる哲学的対話の道徳科授業。 ●生徒同士に対話させながら授業を展開する中で、その教材で迫りたいテーマや革新が自然と深堀されていく授業。 ●授業の中で、自分自身との対話、教材との対話、他者との対話、3つを取り入れることで、生徒がテーマに対して深く考えることができていた。
	話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ●似た意見を持った子たちが集まって話し合いして意見をまとめる指導。 ●子どもたちが話し合うことで道徳的価値の理解を深めていったところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あまり意見が活発に出なかった際、少しだけ少人数で話す時間をとった直後、クラス全体の話し合いも活発になったところを見た時。 ●発問事項を絞り、話し合い活動の時間を十分に確保することで、個々の生徒の価値観・考え方に変容が見られた授業。
	議論	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が自分たちで討議をしている授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が運営する討論会。 ●賛成、反対、中庸の立場に立って議論を行った場面。 ●ワークシートに書くなどはせず、思いをすぐ口に出して議論が始まる授業を観た。自分で深く考える授業も大切だが、議論が活発化する授業が良いと自分は思う。 ●一つの議題について討論形式で教室の窓側と廊下側に分かれて対面で座り、最前列の人から議題について交互に意見を出し合うといった方法。
発表の機会を広げる	積極的な発言の促進	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが生き生きと発言したり、書いたりしていた。 ●子どもたちが、自分の考えをたくさん出していた授業。 ●教材を順に追っていく進め方ではなく、自分がいいなと思ったところを発表していく中で道徳的価値に迫っていく進め方には驚きました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の発言がたくさん出た授業です。 ●生徒の意見や考えが活発に出ている授業。
	全員が参加できるように工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●円形、誰もが発言できる環境。 ●全員が意思を表示できる工夫がなされ、誰と考えが同じか、自分の意見が周りとうどう違うかわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての生徒に発言の機会を作り、全員が参加できる授業が印象に残っています。日頃静かな生徒も自分の意見を述べていてよかったです。

表現活動を生かす	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業 45 分がほぼ役割演技の授業。 ● 児童が自分事として考えることができるように、役割演技を効果的に活用していた授業。 ● 導入と最後に役割演技を先生が行い、先生がまとめることなく、終わる授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 役割演技を行う。 ● ロールプレイを取り入れた授業。
体験と関連付ける	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際に学級で起きたことを取り上げて、授業をして考えたことを発表し合う授業。 ● 子どもたちが自分の生活を思い出しながら、自分の生活に置き換えて発言をしたり考えたりしている授業。 ● 授業の半分以上で教材から離れ、自分の生活について考える時間を十分にとっている授業。 ● 6年生の道徳で、1年生との繋がりを通して成長を実感できるように計画された授業がとてよかった。設定されたゴールに向かって、必要な活動や写真、1年生からの感謝の手紙などが効果的に配置されており、とても感動的な授業だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の葛藤を活かした導入。 ● いじめの実話を扱った授業。
工夫する 板書を	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の始めと終わりで考え方の変化がわかりやすく板書された授業。 ● 授業の流れの板書でわかりやすいのがあった。 ● 子どもの意見を板書で上手に構造化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 板書を効果的に用いており、生徒の言葉がより深まったと感じました。
教師が語る	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の経験や自己開示を伴った授業。 ● 自分自身の経験をもとに話をされる授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の語りが柔らかく、生徒に考えさせる余韻のある説話。 ● 教員の経験を語り、気持ちを生徒に伝達する指導。 ● 教員になる前の仕事をいかした授業を行い、職業について専門的な話をしていた。
本音や真剣さを引き出す	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童全員が真剣に話し合う授業。 ● 子どもが自分を語り涙していた授業。 ● 児童の本音を引き出しながら、最後は主題に迫ることができた授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが、自分の素直な気持ちを伝えることができている授業。 ● 生徒が「自分だったら、、、、」と真剣に考えている授業。
雰囲気づくりをする	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が自由に意見交換している姿。否定せずに違う意見を言い合える学級の雰囲気。 ● 教員が一つの発問で議論がずっと続く授業を見て、思い切り自分の意見を言うことができる雰囲気、表現力に感銘を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が出した意見について、みんなが考えて意見を出し合う雰囲気がある授業。答えを求めるのではなく、いろんな意見があつてそれを自分がどうとらえるかを見つめる。

多様な講師を活用する		<ul style="list-style-type: none"> ● 地元のゲストティーチャーを呼んで身近な話をさせていただく。 	
実施形態を工夫する		<ul style="list-style-type: none"> ● 体育館で6年生全クラスと保護者を交えて、講師の先生が道徳の指導をしてくださったこと。100人以上で黒板もなく、マイクと資料だけで授業をされたのには衝撃を受けました。 ● 指導者向けの授業ではなく、家庭でも道徳について触れてもらう機会として人権教育週刊等で全校あげて道徳の授業公開を行った。 ● 地域の方や保護者、教材と関連ある企業の方をゲストに招いて、児童といっしょに学んだ授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年で一斉に受ける授業。 ● 親子道徳。親子で対話ができた。 ● 違うクラスで道徳をする。
研修を充実する		<ul style="list-style-type: none"> ● 文科省の授業動画。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年で共通した課題を用い、他クラスの授業を見学し、担任が互いに学び合う ● 初任研の示範授業で、授業に臨む姿勢や準備の仕方(他自治体の指導案を参考にしたり、ホームページを活用したりするなど)。
具体的な教材名が含まれるもの		<ul style="list-style-type: none"> ● 『ハムスターの赤ちゃん』の授業で最後、親が書いた手紙と名前を付けた由来を子どもが読む終末の道徳授業。 ● 『ここはっば』。ICTを活用し、子どもの思いを色を使って表現した。 ● 『最後のおくり物』。相手の負担にならないように気遣うところまで、自分もできるといいなと思います。 ● 『バスと赤ちゃん』。動きの再現から価値に迫る授業でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 『手品師』の授業で、約束は誰とするのか？という問いに対し、先生が約束は自分とするんだと言われていて、自主・自律とはそういうものなのかと目からウロコでした。 ● 『二通の手紙』をされていた先生が色々な条件を提示したり、カードを使ったりすることで生徒がいきいきと活動していたしめちやくちゃ心が揺さぶられているのが見ているだけで分かった。 ● 『命を見つめて』という教材を、実際に乳がんを患った先生が授業をし、終末でその経験を語った授業。
具体的な実践者名が挙げられているもの		(略)	(略)

区分が難しいもの	<ul style="list-style-type: none"> ●登場人物になりきって気持ちを考える。 ●教材中心ではなく、児童の思考の流れに沿った授業展開に感銘を受けました。 ●子どもの考えを教師が明確にし、自分自身の生き方として考えるような話し合いが行われた授業。 ●教師が発表している児童の後ろに立って、周りの児童の注目を集め、その児童の発表に耳を傾けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●当たり前と思っていたことなどをもう一度考えさせる授業展開。 ●年度初めのサイロトークや心の窓を先輩の先生がやられていて、道徳開きには学級運営の役割も持たせることができるんだと感じました。 ●教科書のテキストをすべて読むのではなく、話の流れを簡潔に口で伝え、特に大切な部分のみテキストを読んだ点。そうすることで子どもたちがしっかりと考える時間をとることができた。 ●生徒の机の間を回ってワークシートに書いた一人ずつの意見をメモしたりして、生徒に発表させる順番や構成を考えてその時間内に披露させたり、発表させたりした先生。
----------	--	---

「生かしたい工夫等」に関する意見をカテゴリー別に分類した結果、小学校教員の回答では、「教材を工夫する」が最も多く、次いで、「発問を工夫する」、「意見交流・議論の時間を作る」が多かった。「教材を工夫する」の下位カテゴリーでは、「身近なもの」、「映像や写真」の順で多かった。また、「意見交流・議論の時間を作る」の下位カテゴリーでは、「意見交流」が大半を占めていた。中学校教員の回答では、「意見交流・議論の時間を作る」が最も多く、次いで、「教材を工夫する」、「発問を工夫する」が多かった。「意見交流・議論の時間を作る」の下位カテゴリーでは、「意見交流」、「議論」の順で多かった。また、「教材を工夫する」では「題材の工夫」が最も多かった。

小学校と中学校の回答を比較すると、小学校教員に多くみられる回答は、身近のものや映像を使用したり、表現活動を実施したりすることを通じた場面を想像しやすくする工夫や、発問の仕方、雰囲気づくりを通じた意見を引き出すような工夫であった。一方で中学校教員に多くみられる回答は、題材の工夫や子ども自身に考えさせるような働きかけ、議論の機会を設定するといった工夫であった。これらのことから、小学校教員は、子ども主体の授業にするための教員自身の事前準備や立ち回りの工夫に着目しやすい一方で、中学校教員は、子ども自身に考えさせるための題材選びや授業内の機会設定の工夫に着目しやすいことがうかがえる。

教材や題材の内容では、小学校教員、中学校教員ともにドナーの話といった生命にまつわるテーマが多く挙げられていた。これは、葛藤を引き出したり、深く考えさせたりといった工夫を行いやすいテーマであるためだと考えられる。

C 道徳の授業についての期待や、これからのに向けた考え

(C-1) 「特別の教科」である道徳科に対する意見

図 20, 図 21 では、調査協力者の「特別の教科である道徳に対する意見」に関して、学校段階別に、小学校段階および中学校段階の割合を示した。

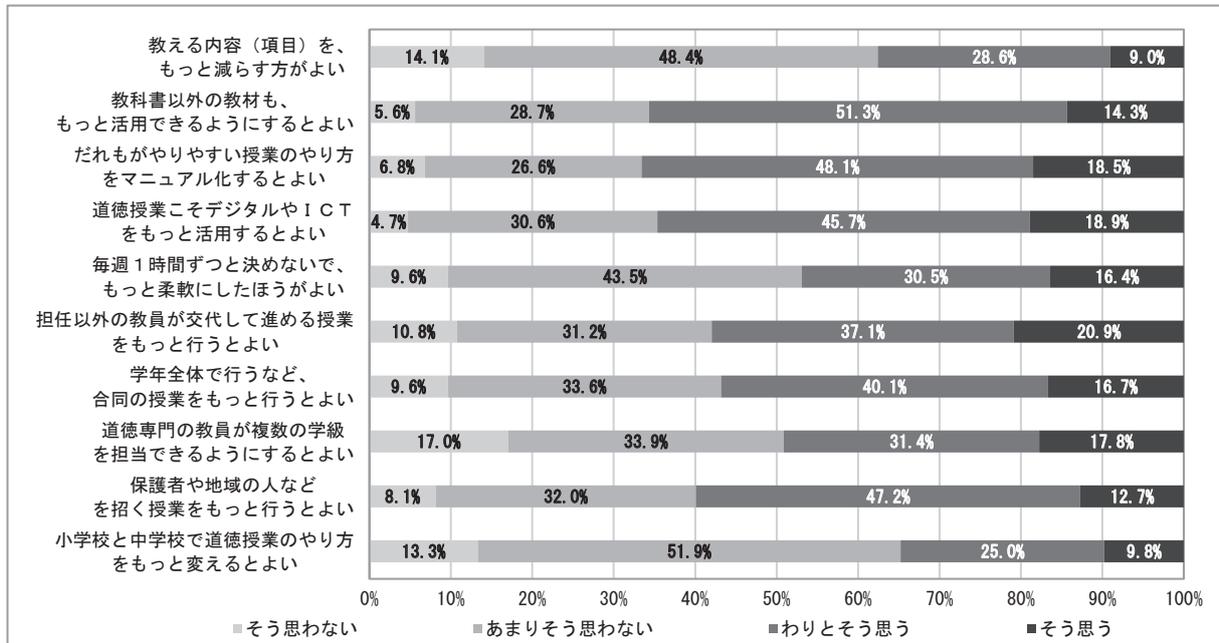


図 20 特別の教科である道徳に対する意見：小学校 (n=676)

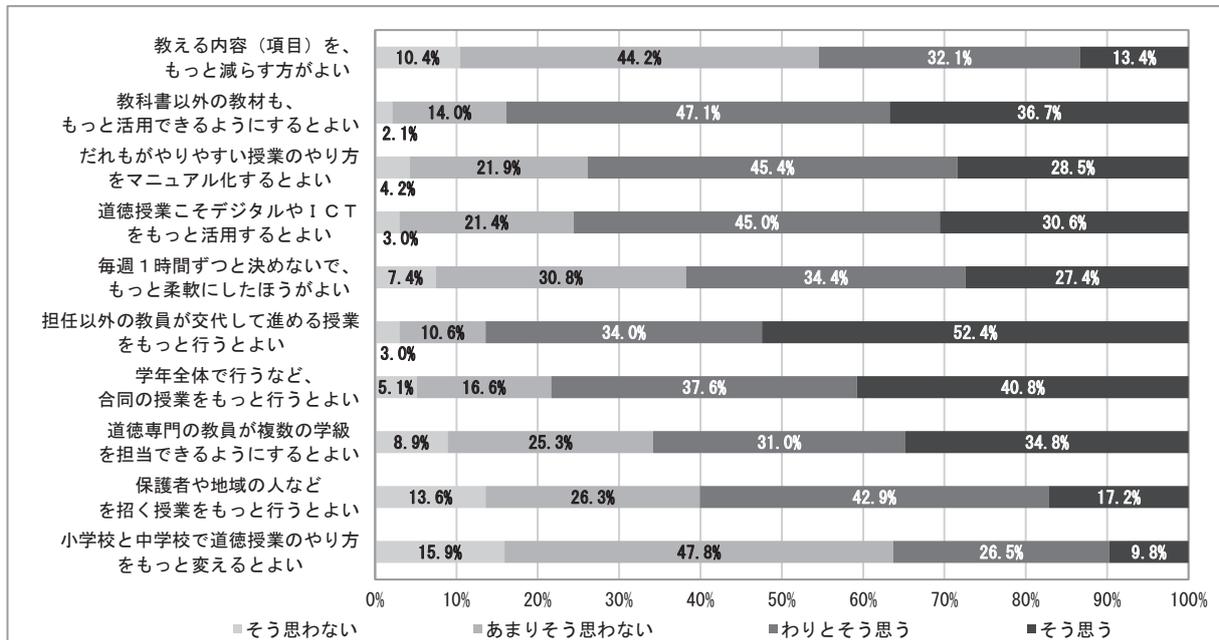


図 21 特別の教科である道徳に対する意見：中学校 (n=471)

全体として、すべての項目において中学校教員の方がより強く共感している傾向がある。小・中学校ともに回答が多かったのは、ICTの活用と、担任以外の教員が交代して授業を進めることに関する項目であった。これらの結果から、教員は多様な指導形態の組み合わせや、担任・学年団などによる協力的な指導体制に期待を寄せていることがわかる。

(C-2) 授業で行いたいテーマ

図 22, 図 23 では, 調査協力者の「道徳の授業で行いたいテーマ」に関して, 学校段階別に, 小学校段階および中学校段階の割合を示した。

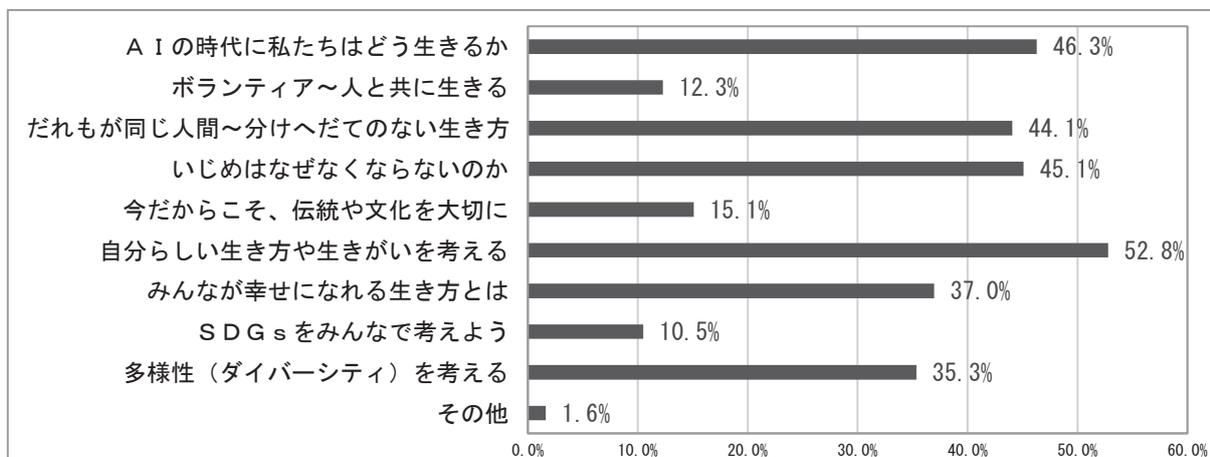


図 22 道徳の授業で行いたいテーマ：小学校 (n=676)

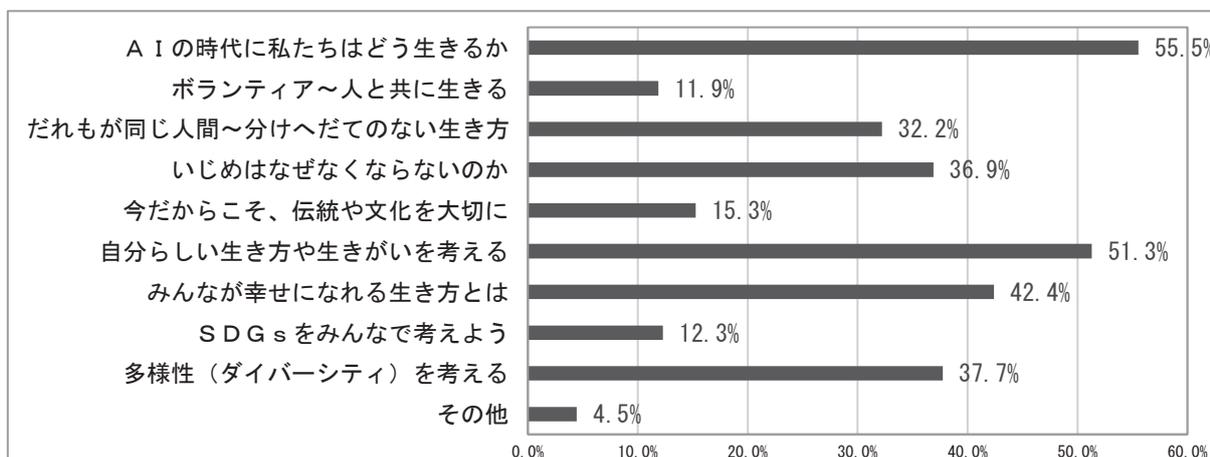


図 23 道徳の授業で行いたいテーマ：中学校 (n=471)

表 16 「その他」の回答例(一部)

小学校	中学校
自己実現 情報モラル ネットリテラシー バイアスって何? 金融教育を含んだ制度・節制 夢・希望・忍耐 何でもハラスメント化する時代にどう生きるか 人はいかに生きてきたか～先人に学ぶ, 古典に学ぶ 変わりゆく時代の中で, 変わってはいけない大切なこと	SNS LGBTQについて考える 規範意識の向上 温故知新, 普遍的なこと 格差をどう乗り越えるか 幸福は分け合えるのか 校則を自分たちで見直そう 国を守る仕事について 災害の中でも生き抜く 生命の尊重 自己の尊重(嫌なことは嫌だと伝える) 戦時下の実話を通して, 命の大切さをテーマにしたもの 善意は押し付けの授業になるけど, 必要なことだと思う 命にかかわる事(脳死, 臓器提供, 尊厳死, 孤独死等) 変化が激しく多様な価値観が認められる世の中だからこそ, 全員が大切にしたい人間としての普遍的な価値

小・中学校ともに, AIの時代にどう生きるか, 自分らしい生き方を考えるに関する項目が多かった。また小学校では, だれもが同じ人間やいじめなど, 公正・公平さや人権に関わる内容を特に重視する傾向がみられた。一方, 中学校では特にICT社会に適應する力を育てたいという意識が示されていた。さらに「その他」の自由記述欄に, 選択肢には含まれていないテーマについて幅広い意見が寄せられ, 教員の多様な関心が示された。

(C-3) これからの道徳授業への期待と改善すべきこと

分析に先立ち、「これからの道徳授業への期待と改善すべきこと」に関する自由記述を分類するためのコードを作成した(表17)。

表17 「これからの道徳授業への期待と改善すべきこと」に関する自由記述分類のコード表

カテゴリー	含まれる内容の例
教材の充実	教材を増やす 教材の見直し ジレンマのある教材 共感しやすい 引き込まれるような題材 デジタル教材 参考動画や資料の充実 教材の多様な使い方 教科書の必要性
教具の活用	I C Tの活用 映像資料を活用
教材研究の充実	教材を正しく読む 実態に合った与え方 実態に沿った資料選択
授業のあり方	自分事として考えられる 教えるではない道徳 柔軟な授業 体験型の学習 本音で語り合える授業 議論する道徳 経験を語れる 生徒主体による授業
指導内容の見直し	価値項目の精選 新たな価値観 柔軟な指導内容 内容を精査し削減
他教科や日常生活との関連	他教科との関連 教科横断的 実態に寄り添った授業 実生活に生きる 社会問題
学級経営との関連	学級づくりの推進 授業で学級づくり
教師の意識や構え	教師の教養 苦手意識を薄める 重要性を理解し取り組む
児童生徒の意識や構え	真剣に臨む姿
価値観やスキルの育成	心の成長 自己肯定感を高める 人格形成の糧 人とのかかわり 社会の中で生きて働く力 愛国心
研修・研究の充実	研修機会の確保
指導の提案と共有	教授法を共有 実践例の共有 指導のマニュアル化 指導書の改善 意義が理解でき実践できる指導要領の作成
全校体制での道徳教育	学校全体で取り組む 分担して実施
専科の配置	専科の創設 専科教員の配置 教科担任制 専科教員
多様な講師の活用	ゲストティーチャー 外部講師 担任以外の授業
地域や家庭との連携	家庭との連携 地域人材 地域や保護者を招く授業
評価の扱い	所見の廃止 評価形式 評価の意味 評価の見直し
時数の扱い	35時間の実施 時数の軽減
教科化の受け止め	教科にはなじまない 教科化をやめる 教科化の検討
道徳の位置づけ	教育活動の中心に 敷居が高い
地道な繰り返し	実践の積み重ね コンスタントに 毎日の指導の充実
時間的ゆとり	授業時間の確保 時間が足りない
負担の軽減	負担が軽減される
その他	

① カテゴリー別回答数

学校段階別に「これからの道徳授業への期待と改善すべきこと」に関する自由記述をコード（表 17）に従い分類した結果を図 24，図 25 に示した。なお，一つの自由記述に複数の内容が含まれている場合は，それぞれを分割して分類し，複数回カウントした。

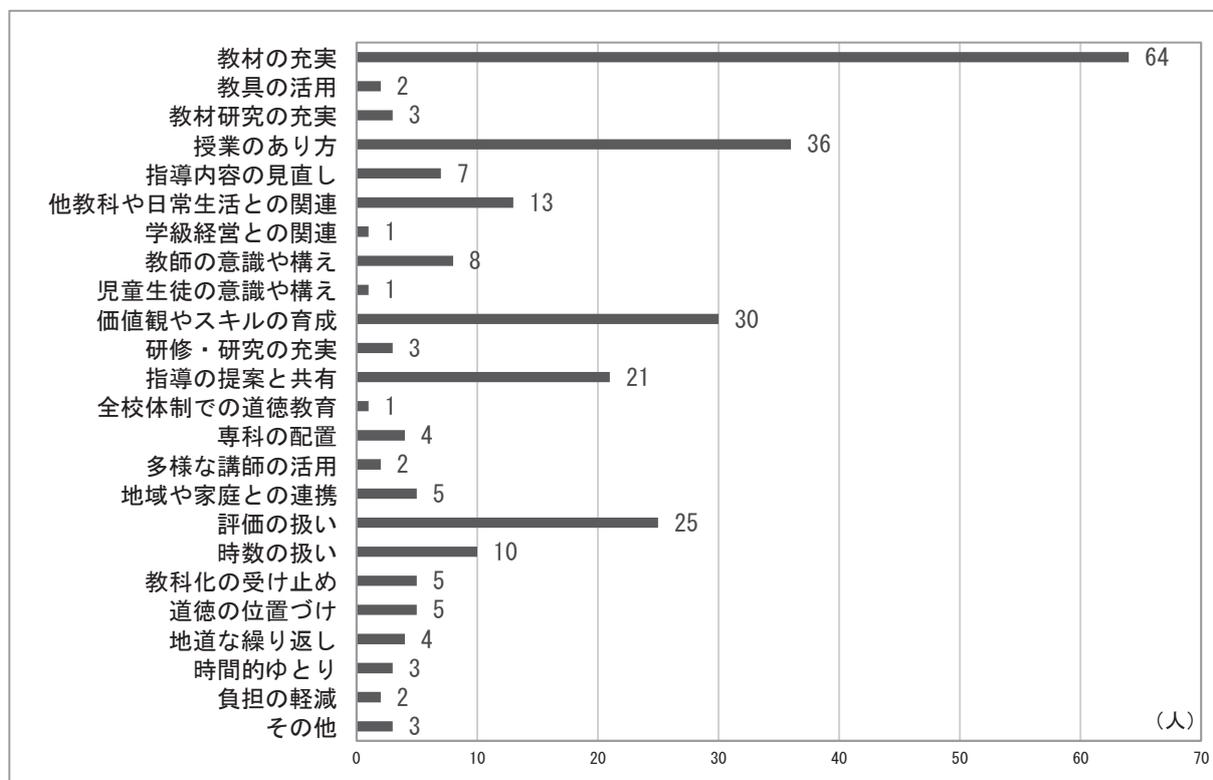


図 24 小学校教員の「これからの道徳授業への期待と改善すべきこと」の自由記述を分類した結果（ $n=231$ ）

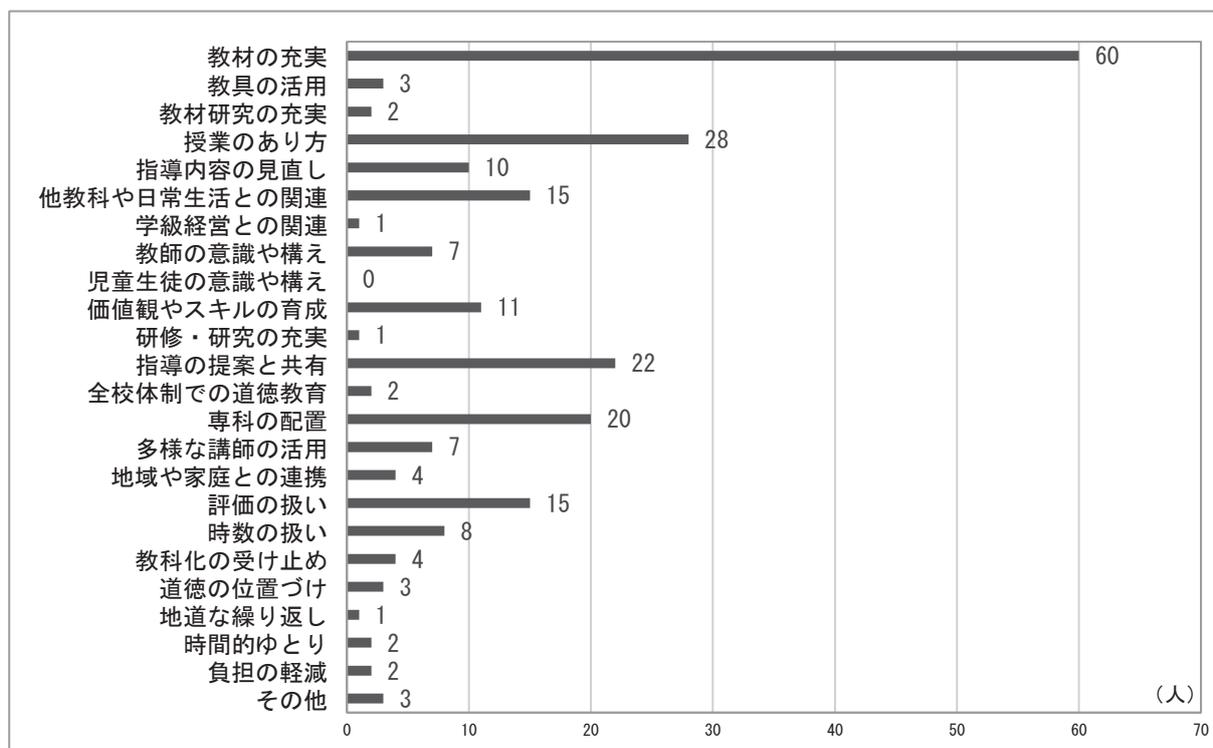


図 25 中学校教員の「これからの道徳授業への期待と改善すべきこと」の自由記述を分類した結果（ $n=209$ ）

② カテゴリー別回答例

学校段階別に、「これからの道徳授業への期待と改善すべきこと」に関する自由記述をコード（表 17）に従い分類した回答例を表 18 に示した。

表 18 「これからの道徳授業への期待と改善すべきこと」コード別の回答例

	小学校	中学校
教材の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●内容を少なくする。 ●教材を増やしてほしい。 ●考える教材の工夫。 ●子どもたちに伝わりやすい教材。 ●授業に沿った、自分の意見が書けるプリント集などがあるとよい。 ●情報モラルやデジタルタトゥーやフィルタリングなどを知るきっかけとなる教材が大切だと思います。 ●教科書が論するような読み物教材になり、ほぼ答えが出ている内容な気がする。もっと、子どもが議論したり、自分事として考えたりしたくなるような内容のものがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書に加え映像資料の充実。 ●教科書の廃止、もしくは教材の自由な選択ができる風潮や規定。 ●読み物資料が多すぎるので、脱却したい。 ●取り上げる教材も、時代や流行をもっと意識した内容を取り入れてよい。 ●一人一人が自分を大切な自分だと認めて生きていくことができるような内容。 ●生徒が想像し、意見を持つことができるようにするために、共感の抱きやすい状況や、想像しやすい内容を教材に入れてほしい。
教具の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTを活用しつつ、一人一人の心にしみる授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ICTの活用。 ●教科書の資料も、道徳的価値を揺さぶる内容のものが増えてきているので、文字資料としての教科書も活用しながら、ICT・映像資料等もより活用して、さらに生徒の道徳性を養っていききたい。
教材研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●教材を正しく読むこと。 ●子どもの内面に迫るような教材を見つけ、実態にあった与え方を考えていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が興味を持ったうえで、「考え、議論」できる教材を見つけることが肝要であると考えられる。
授業のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ●真剣に議論し合える道徳。 ●体験型の学習が必要だと思う。 ●教科書で教える、ではない道徳。 ●子どもとともに考える道徳の授業。 ●答えのない内容でも対話的で深まるとよいと考えます。 ●子どもたちが自分事として考えられる授業に改善していくことができればよいと思います。 ●子ども同士のディスカッションの機会を十分にとってきたい。自分の考えを自分の言葉でまとめることができる。お互いの考えを知り、認めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ディベートを増やす。 ●子どもが自分ごととしてとらえやすい授業。 ●本気で語れる、想いを発信できる授業づくり。 ●生徒主体による道徳をこれからも推進したい。 ●教員にとっても生徒にとっても幸せな時間になりたい。 ●生徒が自分の考えを活発に出し、その考えを認め尊重し合える授業づくり。 ●子どもが少ない時代だからこそ、出身、年齢、性別にとらわれずに人と関わる機会を増やしたり意見交換ができれば(教員以外も)と思う。

指導内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ● 内容項目の精選(今の項目数や内容が適切なのか)。 ● 価値項目を精選して、一つ一つをより丁寧に考えて自分に落とし込めるような授業ができるようにしたい。 ● 指導の内容や方法をより厳選していただき、短時間の教材研究で多くの学びが得られるような授業ができればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 項目を精査し、より濃いものにしたい。 ● 教員自身の自分史を伝える領域を設けることも一つなのではないかと思います。これまでの教員の人生経験を伝えることで、教員自身が大切にしている価値観と教科としての道徳が深くかわれると思います。
他教科や日常生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 他教科との関連を深める。 ● 道徳と特別活動の連携。 ● 社会問題に対応した課題の提起。 ● 自分自身の生活におきかえて、実生活にいかせるような道徳教育。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報リテラシーを実際の話などから考えさせる。 ● 教科書だけでなく、学級の実情や時期に応じた内容を選択できる形にしたい。 ● 地域や学校、生徒によって、課題やその背景にあるものが異なる。教科書やマニュアル化された一律の授業ではなく、地域や学校、クラスや生徒の実情に合わせた多様な授業ができるようになればと思う。
学級経営との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳を学級経営の要としていく学級づくりの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 週に一度の道徳授業で、学級づくりをしていくことが大切だと感じています。
教師の意識や構え	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの先生方が同じように道徳の授業を大切にしてください。 ● 道徳教育推進の意味や意義を現場教員に丁寧に周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳教育の重要性を教員がより感じられるように。 ● 教師は公的な研修には依らない自己研鑽を積む必要がある。
児童生徒の意識や構え	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが自分事として捉え、真剣に臨む姿を期待します。 	

<p>価値観やスキルの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自己肯定感が高まる授業にしたい。 ●児童の心の成長，意識，意欲の向上につながる とよい。 ●社会に出ていくために必要なスキルを身に着け られるような道德教育が必要。 ●「みんながって，みんないい」と思える児童 を育て優しい世界をつくりたい。 ●「こうしなければいけない」ではなく，視野を 広げ多様な生き方を知る時間になっていかれる といいと思います。 ●Well-being, 今も未来も，みんなが 心豊かに幸せに生きることができる素地を道德 で学ぶことができたら最高だと思います。 ●多様性が叫ばれている時代だからこそ，いつの 時代においても変わらぬ価値観を考える時間 にしていきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人としてのやさしさ，生き方を考える時間にし たい。 ●人とのつながり方，自分を取り巻く人への思い やりなど心に訴えることができる授業を目指し ていきたい。 ●日本人で良かったと思えるようにしていきたい。 ●道德を通して，見えるだけの判断ではなく，人 としての心の大切さをより深く，知ってほしい と願いがある。 ●時代や生徒の実態に合わせていくことも必要で すが，豊かな心を持つ人として生徒の成長を促 す「不易」の部分は大事にしてほしい。
<p>研修・研究の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●研修として道德専門教諭の授業を参観する機会 を増やしてほしい。 ●道德専科の先生を配置して，様々な教員が研修 できる機会を持たせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年間計画の立て方，評価の手立てなど，研修の 機会があると良い(就業時間内に)。
<p>指導の提案と共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援の道德をもっと知りたい。 ●教科化したので，授業モデルを示したものがあ るといいと思う。 ●誰でも効果的に需要ができるような教科指導書 が欲しい。 ●子どもが関心を持つ内容や意欲的に参加する方 法などあれば全国で共有できるとありがたいで す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●色々な先生方の取り組みを共有できる場がある とよいです。 ●ICT活用だけでなく，多角的な授業展開がで きるような指導要領になればと思います。 ●タブレットを活用した授業展開がなかなか出来 ていない教員もいるため，ICTを活用した授 業実践がだれでも見れるようになるといいなと 思う。
<p>全校体制での道德教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学校全体で取り組む道德教育。 ●校長と道德教育推進教師がリーダーシップをと り，先生方に授業をしやすいようにサポートす ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●誰かが一人でやるのではなく，みんなで分担し て道德の授業を実施していく。 ●道德を学校全体で取り組めるようにしてほしい し，授業について相談できる人が校内にいてほ しい。
<p>専科の配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●道德専科の創設。 ●専科の先生が増えると嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道德の専科教員の配置。 ●道德科の教科担任制を導入するべきだというこ と。 ●専科の教員が増えると教員の負担は減ると思 いますが，普段からの取組やかかわりが必要な教 科だと思うので，専科の教員と担任が一緒にな って行うことが出来ればより効果が上がるので はないかと思っています。

多様な講師の活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 担任以外での道徳授業を必須にする。 ● ゲストティーチャーなどを招いて、生の声を聴く授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ● もっと外部講師の講演があるとよい。 ● オンラインでのゲストティーチャー授業の促進に期待します。
地域や家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭との連携。 ● 保護者の方にもお子さんの行動を見直してほしいと感じるので、例えば、副読本は、保護者に渡して、お家で書き込んでもらうなど協力してほしい。家で自分の礼儀、節度節制、親切、思いやりなどのお話を定期的にやってもらうことで、自分のお子様の考え方や保護者の生活習慣の見直しにつながると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者を巻き込む。 ● 地域人材の活用をしたいが、打ち合わせ等の時間が必要になり、できないことが多くなる。
評価の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価について、再考していく必要があると思う。 ● 評価のしにくさをどうにかなれればいい。 ● 記述式での評価に効果を感じられません。無くなるとういなと思っています。 ● 指導要録に評価を記述する必要はないと感じている。 ● 評価の仕方を具体的に示してほしいです。 ● 評価を無くしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の評価の改善。教科化されて、評価を行うことが負担になっている。 ● 評価の簡略化。一人ひとりの所見を用意したり記入することによりかなりの時間を要する。 ● 道徳の授業を通して、子どもを評価の対象にはしたくない。 ● 文章評価の破棄。 ● 評価をなくす。
時数の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 35 時間も必ず行う必要がない。 ● もっと時間を減らして、柔軟に授業できるようにしたい。 ● 毎週1週間、心を育てる時間は絶対に必要。 ● 1 時間で考えられることに限りがあるので 2 時間など数時間かけて考えるとより深まりは出ると感じる。が、国語に近くなってしまう可能性も。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎週あると、すごく重荷に感じてしまう。 ● 道徳の時間は必ず道徳授業をやる、すべての価値項目を必ず行うことを義務化する。
教科化の受け止め	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳が教科である必要があるかの検討。妥当性があれば継続でいい。なければ無くす。 ● 道徳は教科にはなじまない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科化にせず、柔軟なものにしてほしい。 ● 教科化しない方がよい。
道徳の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳を要として全教育活動を通して道徳教育を進めていくべきだと思います。 ● 「教科」となると強制力があるので、もう少し日常生活に寄り添うくらいの扱いで良いのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳をすべての教育活動の要としての重要性を第一線に出した改革をしてほしい。

地道な繰り返し	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践を積み重ねていくしかないと思います。 ● 教科化されて、ようやく担任の先生方の道徳科への取り組みが本気になってきた今、もう少し現状のままでしっかりと実践していった方が良くと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日の指導が充実していなければ。うわべの授業をしたところで子どもたちには響かない。
時間的ゆとり	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員数を増やし、教員がゆとりをもって道徳の授業準備をすることが出来る時間の確保。 ● 小学校はあまりにも授業数が多いため、道徳を充実させたいなら教材研究の時間が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の働き方改革とも関連させて、もっと教員自身が考え・議論する時間を持つべきだと思う。 ● より効果がある指導ができるよう、道徳に担任が向き合えるだけの時間の確保をお願いしたいです。
負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の事前準備や評価がしやすく、負担が軽減されるとよい。 ● まず、第一に業務量を削減してほしい。それからじゃないと、道徳や各教科へのベクトルは向けられないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳は必要だが、学担の負担はかなり大きいと思う。 ● 時数はもう少し少なくてよいので教育課程を変えてほしいと日々感じている。道徳には免許がないのに、教科化し週に一度進めていくことへの不安が多い教員が多く感じる。そういったことから時間的なこと以上に精神的負担が大きく働き方改革で一番最初にテコ入れしてほしい部分である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育に加重の期待をするのは間違っている。教育だけでは解決できないことがたくさんある。 ● 私にとって他の教科と比べると道徳を指導する必要感はないです。 ● そもそも社会全体、大人が模範をしめせない限り、改善は望めないと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 流行と不易について。

「これからの道徳教育について期待・改善したいこと」についてカテゴリーを作成し、分類を行った。全体の傾向として、「教材の充実」が最も多く、次いで「授業のあり方」、「指導の提案と共有」の順に多かった。教材の内容の質や量、よりよい授業のための工夫について、学校種を問わず重要視されることが示された。また、「評価の扱い」についての回答も一定数みられ、評価のあり方や方法について改善が求められていることが分かった。学校種ごとに比較すると、小学校では「価値観やスキルの育成」が中学校の回答よりも多かった。多様化する社会で、多様性を認めながらも自分の考えを持つ力や、社会の中で生きていくスキルを小学校段階から育成することが求められていることが示唆された。中学校では「専科の配置」の回答が多かった。「専科の教員だけでなく、普段生徒と関わる担任とともに授業を行うとよいのではないか」という回答もみられ、新たな授業のあり方の提案が期待できると考えられる。

◆ 調査内容 ◆

令和6年度 道徳教育に関するアンケート

このたびは「道徳教育に関するアンケート」のフォームにお越しいただき、ありがとうございます。

大変恐縮ですが、皆さんのお考えを広く知りたく、ご協力を何とぞよろしくお願い致します。

★パソコンで回答される場合は、下記のリンクをコピーするなどして、ご活用ください。

<https://forms.gle/zTEUptXLY8NSy3Je9>

◇ご回答をお願いしたい先生：

- ① 道徳教育推進教師、道徳主任、道徳教育を主に担当する先生 1名
- ② 学級担任（①で回答した先生を除く） 可能ならば、1名～最大6名
（🌸学校の事情や規模などによって、人数が少なくてもかまいません。）

◇ご回答期限：令和7年2月28日（水）

（🌸ご都合で遅れる場合でも、3月10日（月）までにご回答いただけますと助かります！）

なお、自由記述の箇所は、特になければお気兼ねなく空白のままスキップされてください。

※ご回答はすべて無記名で行い、結果も全体集計を行うため、学校や個人等が特定されることは全くありません。

【問合せ先】

国立大学法人 東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室
調査チーム（担当：永田繁雄・範蘭心）
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL：042-329-7783
Mail：kokoro@u-gakugei.ac.jp

(Google Form のアンケート開始画面)

■はじめに

最初に、あなた自身に関することについて、少しだけ教えてください。

① あなたが現在勤務する学校種と、担当する学年は何ですか。

【学校種】

※特別支援学校につきましては、別の機会に行わせていただく予定です。

-
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| <input type="radio"/> 中学校 | <input type="radio"/> 中等教育学校 |
| <input type="radio"/> 義務教育学校 | <input type="radio"/> 小学校 |
-

【担当する学年】

-
- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 小学校・第1学年 | <input type="radio"/> 中学校・第1学年 |
| <input type="radio"/> 小学校・第2学年 | <input type="radio"/> 中学校・第2学年 |
| <input type="radio"/> 小学校・第3学年 | <input type="radio"/> 中学校・第3学年 |
| <input type="radio"/> 小学校・第4学年 | <input type="radio"/> 中学校段階・学級担任以外 |
| <input type="radio"/> 小学校・第5学年 | |
| <input type="radio"/> 小学校・第6学年 | |
| <input type="radio"/> 小学校段階・学級担任以外 | |
-

※義務教育学校と中等教育学校の先生は、通常の小・中学校の学年を選んでください。

※現在、複式学級で複数の学年を担当している場合は、該当するすべての学年を選んでください。

② あなたの学校は、次のどの地域にありますか。

-
- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> 北海道 | <input type="radio"/> 東海 |
| <input type="radio"/> 東北 | <input type="radio"/> 近畿 |
| <input type="radio"/> 関東 | <input type="radio"/> 中国 |
| <input type="radio"/> 甲信越 | <input type="radio"/> 四国 |
| <input type="radio"/> 北陸 | <input type="radio"/> 九州・沖縄 |
-

③ あなたの年齢は満でいくつですか。

-
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| <input type="radio"/> 20～29歳 | <input type="radio"/> 40～49歳 |
| <input type="radio"/> 30～39歳 | <input type="radio"/> 50～59歳 |
| | <input type="radio"/> 60歳以上 |
-

④ あなたは、現在、道徳教育推進教師(道徳主任)など、学校における道徳教育や道徳科の指導を推進する分掌を担当していますか。

-
- | |
|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 担当している |
| <input type="radio"/> 担当していない |
-

- A 道徳授業について思っていること・考えていること
- A-① ふだん行っている道徳授業について、どんな印象をもっていますか。次のそれぞれについて最も当てはまるものを選んでください。

	そう思わない	あまり思わない	わりとそう思う	そう思う
おもしろい	○	○	○	○
充実している	○	○	○	○
満足している	○	○	○	○
授業が好きだ	○	○	○	○
魅力を感じる	○	○	○	○
子どもが変わる	○	○	○	○
たいへんだ	○	○	○	○
苦手だ	○	○	○	○
やりづらい	○	○	○	○
疲れる	○	○	○	○
負担を感じる	○	○	○	○
ゆううつだ	○	○	○	○

- A-② 道徳授業を毎週進めることによって、どんなことに役立つと感じていますか。当てはまるものを選んでください。

	役に立たない	あまり役に立たない	割と役に立つ	役に立つ
いじめや非行の防止	○	○	○	○
日常生活習慣の改善	○	○	○	○
規範意識の向上	○	○	○	○
人間関係づくり	○	○	○	○
自尊感情の向上	○	○	○	○
自制心の向上	○	○	○	○
生活への意欲の向上	○	○	○	○
学力の向上	○	○	○	○
主体性の向上	○	○	○	○
充実した生き方	○	○	○	○

- A-③ 毎週の道徳授業の実施の中で、あなたが悩んでいるのはどんなことですか。もしもあれば、お書きください。

[]

- A-④ 道徳科の授業において、国語や算数などほかの教科(中学校ではあなたの担当する教科)などと違って、特に意識していることや、実践していることはどんなことですか。ありましたら、ご自由にお書きください。

[]

●B 道徳授業についての様子や、あなたが工夫していること

●B-① 道徳授業が「特別の教科」である道徳科となって数年が経ちました。今、様々な先生が取り組んでいる道徳授業について、以下のどちらの傾向が強いと受け止めますか。あなた自身ではなく、全体的な様子から感じているところを選んでください。

	わから ない	そう 思わない	あまりそう 思わない	わりと そう思う	そう思う
教師が中心になって進める授業になっている	<input type="radio"/>				
子どもが自ら進める学習になっている	<input type="radio"/>				
指導方法が多彩で様々な工夫されている	<input type="radio"/>				
子どもの自由な発想が活かされている	<input type="radio"/>				
子どもの議論の機会が十分にある	<input type="radio"/>				
進め方がいつもと同じような感じである	<input type="radio"/>				
授業が教師の思いどおりにいていない	<input type="radio"/>				
みんなの考えが違っていてまとまらない	<input type="radio"/>				
国語と同じような授業になっている	<input type="radio"/>				
他の教科などより軽視されている	<input type="radio"/>				

●B-② 次の質問は、今年度、学級担任をしている先生にうかがいます。あなたは、現在、学級担任をしていますか。

はい⇒B-②-★に進みます

いいえ⇒B-③に進みます

- B-②-★ 道徳授業の中で次の方法や工夫などを、どのぐらい取り入れていますか。本年度の4月から今までに取り入れている程度について、およそあてはまると思うところを、だいたいの感じでよいので、選んでください。

	0回	1~2回 ぐらい	3~5回 ぐらい	それ以上
ICTを活用する学習を取り入れた	○	○	○	○
役割演技や動作化などの表現活動を生かした	○	○	○	○
学級目標や生活のめあてと関連を図った	○	○	○	○
各教科や総合、特別活動などに関連させた	○	○	○	○
学級の人間関係の問題を直接取り上げた	○	○	○	○
1時間ずつではなく、複数の時間をつなげた	○	○	○	○
ゲストを招いたり複数の教員で行ったりした	○	○	○	○
教科書にはない教材を中心教材として用いた	○	○	○	○
時事的なニュースなどを生かした	○	○	○	○
映像教材や放送教材を生かして進めた	○	○	○	○

- B-③ 今までに行った道徳授業の中で、特に効果があった、手応えがあったと感じた授業があれば、1つ簡潔にご紹介ください。

◇実施学年

[]

◇用いた中心教材(正確に思い出せない場合は内容の紹介でOK)

[]

◇その授業で、特に効果があった工夫・とっておきの工夫・手応えのあった方法やアイデアについて、よろしければ、1つ教えて下さい。

[]

- B-④ 今までにあなたが見た道徳授業で、大変よかった、自分に生かしたい、と強く思った経験が、もしあれば、どんな指導だったか、心が動かされたところを簡潔に教えてください。

[]

●C 道徳授業についての期待や、これからに向けた考え

●C-① 「特別の教科」である道徳科について、次のような意見が聞かれることがあります。このそれぞれについてどう思いますか。当てはまるものを選んでください。

	そう 思わない	あまりそう 思わない	わりと そう思う	そう思う
教える内容(項目)を、もっと減らす方がよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教科書以外の教材も、もっと活用できるようにするとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
だれもがやりやすい授業のやり方をマニュアル化するとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
道徳授業こそデジタルやICTをもっと活用するとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
毎週1時間ずつと決めないで、もっと柔軟にした方がよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
担任以外の教員が交代して進める授業をもっと行うとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学年全体で行うなど、合同の授業をもっと行うとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
道徳専門の教員が複数の学級を担当できるようにするとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
保護者や地域の人などを招く授業をもっと行うとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小学校と中学校で道徳授業のやり方をもっと変えるとよい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

●C-② 子どもたちは、私たちの知らないこれからの時代を生きていきます。そこで、そんな子どものために授業をするとしたら、特にどんなテーマで行いたいですか。次の中から3つを選んでください。

- AIの時代に私たちはどう生きるか
- ボランティア～人と共に生きる
- だれもが同じ人間～分けへだてのない生き方
- いじめはなぜなくなるのか
- 今だからこそ、伝統や文化を大切に
- 自分らしい生き方や生きがいを考える
- みんなが幸せになれる生き方とは
- SDGsをみんなで考えよう
- 多様性(ダイバーシティ)を考える
- その他 []

●C-③ いま、新しい学習指導要領への改定の動きが始まろうとしています。そこで、道徳教育やその要としての道徳授業について、これからに向けてこんなことを期待したい、こんなふうに改善すべきだという考えがあれば、自由にお書きください。(今までの内容と重なっても構いません。)

[]

ご協力ありがとうございました！

道徳の授業に対する教員の意識・実際の工夫・今後への期待
—全国教員対象調査の結果から—

< 結果報告書 >

発行日：2026年1月

発行：東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

上廣道徳・倫理教育研究開発推進室 担当：永田繁雄・範 蘭心

所在地：184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学

TEL：042-329-7783

E-mail：kokoro@u-gakugei.ac.jp

印刷：株式会社イルコムジャパン